

第 32 回 野口眞利油絵展



バルビゾン風景 F12

此度、京王百貨店にて第 32 回目の個展を開催することになりました。モチーフとしては、アルル、モンマルトル、セーヌ河など、フランスを中心に油絵を描いて参りました。又 最近始めた水彩画も併せ展示致します。是非皆様、ご覧頂けますよう御案内申し上げます。

野口 眞利

会期：2017 年 8 月 31 日（木）→9 月 6 日（水）

会場：京王百貨店 新宿店 6 階 京王ギャラリー

〈最終日は午後 4 時まで〉



医家芸術 春夏合併号 目次

61 巻 通巻 631 号 (2017 年度)

◇医家随想

床が抜ける？

出来 尚史 3

チューホフを読む (13)

ウォロージャ

藤倉 一郎 9

万国の労働者よ、団結せよ

豊泉 清 11

記備談語ー 8ー

佐藤 玄祥 19

桜花咲き乱れる鎌倉

アルプスと稲村ヶ崎温泉

浜名 新 35

高校生のころ見た映画

鈴木 啓之 39

スリップ

八潮 弘三郎 43

サイパン戦跡めぐり

美濃部 幸恵 57

協力 美濃部 欣平

医芸俳壇 65

医芸柳壇 65

医芸歌壇 66

クラブ通信 67

透視像 68

編集後記 68

表紙の言葉 2

原稿募集のお知らせ 56



表紙の言葉

広島県広島市 江川 政昭

『五箇山の春』

数年前、5月のゴールデンウィーク

に富山県の五箇山を訪れました。

五箇山は岐阜県との県境に位置し、

岐阜県側には白川郷があります。

その五箇山の合掌造りは、白川郷の

合掌造りとともに世界遺産に指定され

ています。訪れたときは、周囲の高い

山々にはまだまだ深い雪を冠っていま

した。しかし、合掌造りの家の中では

養蚕など、今も昔ながらの生活が息づ

いていました。

(第六十四回 医家美術展出品)

医家随想



床が抜ける？

出来 尚史

「ミシッ、ミシ、ミシ」

頭の上でただならぬ音がする。

思わず叫んだ。

「何者だ！ 名を名乗れ！」

「私よ。なに騒いでんの」

あきれたような妻の声。

なんだ、泥棒じゃないのか。よかつた——待てよ。ちつともよくないぞ、床が鳴るなんて。こんなことは初めてだ。いったい何が起きたのだろう。妻の体重が突然増えたとは考えにくい。ならば、床の方に問題がある？

二階に上がって調べてみた。音かするのは六畳の和室だった。大型の本箱を二つ並べてある。その周りを歩くと軋んだ。本箱には本が溢れている。無節操に詰め込んだのは私。頻回に訪れて本の出し入れをするのも私。犯人は——お前だ！

これが推理小説なら、犯人が分かっている話は終わる。めでたし、めでたし。が、我が家ではそうはいかない。なにしろ築三十五年。ガタがきてもおかしくない頃だ。すわ、床の危機か？ 心配するには理由があった。先日ノンフィクション作家、西牟田靖氏の作品を読んだばかりだったからだ。題名はそのものずばり『本で床は抜

けるのか』(本の雑誌社)。増え続ける蔵書の問題に世の人がどのように取り組んで来たか、をテーマにした本である。著名人が大半だが、一般の人の話も入っていた。実際に床が抜けたエピソードも出てくるから不安になる。

そういえば、と思い出す。その昔友人から聞いた話である。本が原因で下宿から追い立てを食らったというのだ。彼は勉強熱心な学生だった。所蔵する大量の本が二階の床を撓ませ、一階の天井を撓ませ、結果として、下に住む大家を震え上がらせた。学問への情熱を理解せぬ野暮な大家と誇るなかれ。いかな勇者とて天井崩落の恐怖には耐えられるものではない。土砂崩れならぬ本崩れ。御免破りたいものだ。しかしここで出て来る素朴な疑問。床が抜けるとは具体的に何を意味するのか。梁が折れる？ 床板が裂ける？ なにしろこちらら

建築に関しては全くの素人。さつぱりイメージが湧いてこない。

子供の頃、朽ち果てた家(終戦後しばらくの間こんな廃屋があちこちにあった)を探索していて、床を踏み抜いたという経験はある。それと同じことが起きるのだろうか。その時は一階の床。格別慌てなかったし、怪我もしていない。問題は我が家だ。しかも二階。はたしてどの程度危険なのか。

対処の仕方がわからない。手を拱いたまま一週間が過ぎた。床は相変わらずミシミシと音を立てている。生き物ではないから自然に治るのは期待できそうになかった。

久しぶりに娘が訪ねてきたので相談してみた。彼女は某住宅メーカーで設計を担当している。「軽量鉄骨しか扱っていないので木造家屋には詳しくないけど」と断りつつ、まずは床の基本構造についての講釈から――

以下要点のみ記載する。

「二階の床は上から順に、床材(わが家では畳)、床下地、根太(床下地を張るための横木)、床梁で構成される。このうち構造材として荷重を支えるのは主として床梁である」

ふむふむ。

「普通の部屋は、一平方メートル当たり約百八十kgの重量に耐えられるよう作られている。重い物を載せると予めわかっていれば、梁の数を増やして強度を上げておく。この家がどのような構造になっているのかは設計図を見なければわからない」

ごもつとも。さっそく家捜ししてみた。普段使っていない引き出しの奥から古い図面が出て来る。

「これを見ると、この部分は普通の構造。特別仕様にはなっていない」

ここには本箱は置けないということ？

「一平方メートル当たり約百八十kg

というのは、あくまでも部屋全体の平均荷重の下限。実際はそれよりも強くできている。ここには一二〇×三六〇mm角の太い梁が通っているので壁際におけばまず問題ない」

ちよつと安心した。ちなみに一階の居間の図面を見ると「本棚」と記した部分があった。前もって補強された所だという。当該箇所には現在ピアノと一五〇〇冊を超える文庫本を収納した本箱が置いてある(後日概算してみると本だけで五百kg/m²以上であつた!)。しかるべき場所にかかるべきものを配置したということ、これは正解。

さらに質問してみる。世の中には本の重みで床が抜けたという話があるそうだが？

「一つ考えられるのは、根太―床梁接合部の破綻。床下地としての合板は構造材ではないが、荷重を分散させて梁に伝える役目を持っている。」

重量がかかると合板が変形してその下の根太が撓む。根太と梁との接合部に作用する力が限界を超えた時、根太が離断、床もろとも落下することになる」

「材が劣化していれば、裂けたり、折れたりする可能性も勿論ある。この場合は部分的に陥没するのだろう。床全体が抜けることは稀だと思ふ」
「ホースからの水漏れが原因で床が腐り、二階に置いた洗濯機が落ちた例があつたと聞く」

えつ、洗濯機？　ありがたくないな、それは。

「まあ、本箱は水漏れしないし」
当たり前だ。

「二階の場合、梁と梁との中間に重量物を集積させたり、本などを部屋中に隙間なく積み上げたりするのは禁物。本箱は床梁にちかい壁際に置くのが望ましい」

はい、そうしています。それでも床

が軋む。

「床鳴りは、床材と床下地との接着面の剥離、あるいは根太が老朽化して床下地との間に隙間ができることで発生する。軋むからといって、それがすぐ床抜けに繋がるわけではない」
よかつた。今ここにある危機、というわけではなさそうだ。

だが、ちよつと待て。この部屋には本箱のみならず、タンスも入っている。おまけにベランダへの通路でもある。複数の家人が一日に何度も往き来する超過密エリアだ。わが家にはお淑やかに歩く者は一人もない。ドストロス、バタバタの繰り返しで三十五年。♪これじゃ床にいいわけないよ。このままいけば床鳴りだけでは済まないかもしれません。

「どうかお手柔らかに」床の頼む声が聞こえるようだ。

よし、本箱を他の部屋に移そう。決心したのはその夜のことであつた。

とりあえず二つのうちの一つだけ。中身のほうも一階の本と一部交換することにした。

翌朝さっそく作業を開始した。手を動かしながら考えともなく考える。とにかく本が多い。この家を建てて以来、歯止めなく増え続けているように思える。買うだけ買って捨ていないのだから当たり前と言えは当たり前だ。それまでは引越しの度にかんりの数を処分してきた。常に一定量の本を残すだけ。蔵書と呼べるほどの数ではなかつた。なんとさっぱりしていたことか。

ここに移つて来て状況は一変した。本が居座るようになったのだ。捨てられることはないとかわかつているのだろうか。見ればなんとなく態度が大きい。しかも仲間を呼ぶ。呼ばれた仲間もしたり顔。当たり前のように本棚に収まつていく。私は彼らのために

次々と本箱を買い揃えねばならなかった。

現在わが家には、私の物だけで十一個の本箱がある。天井まで届きそうな七段構えが二つ、高さ二m、幅一・五m、ワインレッドのどっしりした大物が一つ。あとは一・八〜一・九mクラスが続く。ワインレッドの本箱は値が張った。結婚した時購入したものだ。当時はアパート住まい。狭い所によく収まっていたなと感心する。居間の壁際中央が彼の今の定位置だ。鎮座ましまして本箱の王様であるかのように振る舞っている。

これを含め重量級は一階に、比較的軽い物は二階に配置した。場所を分散させたので本を探すのに苦労する。もちろん大雑把には分けてある。ここには自然科学系、あちらは文学評論、語学関係、隣に美術や書道、少し離れて登山、スキー、サブカルチャー、といった具合だ。それでも時々中

身が入り乱れている。ジャンルの違う本同士で交流でもあるのだろうか。

一番数の多いミステリーやSFは、出版社別、著者別のリストを作成した。これを見れば一目瞭然、とまではいかなくても検索は早いぶん楽になった。最近では重複購入というばかばかしい事態を避けるのに大いに役立っている。

いうまでもなく、本は図書館や書店のように整然と縦に置くものだ。内容別にまとめたり、表紙の色を揃えたりと工夫してみる。美しい、これぞ本箱のあるべき姿、と自画自賛してみるがこれも最初のうちだけ。いつの間にか縦に並べた本の上に横置きの本が積み重なるようになる。それが一杯になったら次は奥だ。

棚の奥行きが深い場合、それを利用しない手はない、とばかりボール紙で雛段を作り、文庫本の棚はすべて三段構えとした。三倍入れようと

の算段である。これだと部分的にせよタイトルが見える。細工は上々、仕上げを御覧うじろ。喜んだのも束の間であつた。文庫本の増えるスピードは速い。見る見るうちに満杯になり、隙間も埋まり、結局どんな本を入れたかわからなくなつてしまった。

これでは本が可哀そうだ。本棚も過重労働だと不平を漏らしている。かといって、これ以上容れ物を増やすのは無理なような気がする。「あと二、三箱は大丈夫だよ」聞こえるのは悪魔の囁きか。誘惑に負けてはいけない。床が心配だ。さらにはスペースの問題がある。生活空間の狭小化は何としても避けなければ。人は本のみにて生きるにあらず、ということではないか。ん？

蔵書を巡る環境を整備したい。美しく、快適なものに。ただし、本箱の数は現状のままという条件付きだ。やれることは限られてくる。「買わな

い」そして「捨てる」。簡単明瞭、かつ、難しい。

読書は習慣である。私の場合、本を買うというのも習慣だ。学者ではない。文筆を生業としているわけでもない。積極的に本を購入する必要性は全くといっていいほど、ない。が、とにかく買ってしまうのだ。

好奇心は強い方だと思う。これが私の本買いの原動力？ あれも知りたい、これも知りたい。本には新しいことが一杯詰まっている。宝物といつてもよい。その伝でいくと、本屋は宝の集積所、埋蔵所すなわち宝島。広告や書評を地図代わりに探索するもよし。白紙の状態から勘を頼りに発掘を試みるもよし。新発見を目指し、私は勇んで船出する。羅針盤はいらない。宝島の底知れぬ引力によって、いつの間にか到着しているからだ。

いざ宝島に上陸すると——以下何

が起きるか、ちよつとしたシミュレーション。

「書店に入った。街の喧騒から離れてほつとする。お目当ての本が見つからなくても一向に構わない。ぶらぶらとただ見て回る。たくさん本の本に囲まれて幸せだ。平積みになった新刊書や話題作。棚にきちんと納まっているのは既に評価を得てこの店の住人となった本だろう。華やかな衣装をまとった者がいる。そうかと思うとこちらは地味な服を着て妙に畏まっている。立ち止まって見つめると、むこうも見つめ返す。中には話しかけてくる者さえいる。

「こんにちは」

危険な一瞬だ。目を逸らして立ち去ればよいのだが、足が動かない。ついつい手に取る。頁をめくりながら本との対話が始まる。後はお決まりのコース——レジへと一直

線だ」

どうもこのお宝には値段がついていないらしい。おまけに、後々大きな代価を払わされる羽目にも。本物の財宝なら、故郷に錦を飾り以後幸せに暮らしました、となる。本の場合はこうはいかない。たくさん買つて家に帰り、以後寝るところがなくなりましてときどき、だ。やれやれ。本屋に入ったことが不幸につながるとは。この宝島には近寄るべからず、です。たとえどんなに魅惑的であつても。

さて、買い控えができないとなると、残る道は「捨てる」しかない。

しかし、これはもつと難しいような気がする。古い本、すなわち用済み本ではない。当たり前のことだが。ここにあるのは自ら選んだ本だ。それぞれに大切な思い出がある。本棚から抜き取って開いてみたまえ。過ぎ去った日々が色鮮やかに蘇ってくるではないか。

あれはどんな時代だったか、あの時私は何を考え、何をしていたのか。友人と交わした会話、その一言一句まで憶えていることがある。一冊一冊が人生の記念碑とも呼ぶべき存在だ。度重なる引っ越しに耐え、廃棄処分を免れて生き延びた彼ら。わが師であり、わが友であった彼ら。簡単に手放せるものではない。

比較的新しい本の中にも捨てられない本が相当数混ざっている。これは別の理由によるものだ。すなわち私自身の記憶力の大幅な低下。読んだ本の内容をいつまでも憶えていられない。

「あれえ、なんて書いてあったんだっけ」年がら年中こう呟いている。そんな時のため、重要な本は残しておいた方がよい。問題は、重要と思われる本が年々増えていくことだ。私のボケ度の進行となんらかの関係があるとみえる。

いやはや言い訳だらけになった。蔵書環境の改善を目指してはいるものの、いまだ道遠しの感。空間を多元化する能力があればよいのと思う。四次元、五次元の世界が導入できれば無限に本を収納できる。だがこれは神の領域だろう。ホモ・サピエンスの中でも特別低級な私には到底無理な話だ。

いっそのこと家を建て替えようか？ それなら可能性はゼロではない。大容量の書庫を中心とした家だ。もちろん重量物積載の特殊設計、施工。今の二倍、三倍に蔵書を増やしてもへっちゃらである。えつ、二倍、三倍？ そんなに買っても読み切るまで寿命が持たないよ。でも広くなればすっきりすることは確か。本と戯れながら心地よく過ごせる。

そうだ、専任の女性司書を雇わなくては。とはいっても、生身の人間だといろいろと問題が起きるかもしれ

ない（そんな心配はありません）。ロボットにしようか。R2―D2型ドロイド？ 最高だ。腕がうんと伸びて高い棚に届くやつ。あるいは、浮遊移動できるもの。楽しいだろうなあ――そんな生活。いやこれは妄想、妄想。

余計なことを考えながらでは作業は捗らない。本箱を移動し、本の入替えが終わったのは昼過ぎだった。が、今回は収穫があった。百冊余り処分できたのだ。捨てたのに収穫というのはおかしい？ まあでも、私としては画期的なことである。清水の舞台から飛び降りたと思つてほしい。これでいくらか落ち着いた。床も負担が軽くなつて喜んでいることだろう。こうやつて少しづつ整理していくしかないまい。

午後遅く街に出た。国土地理院の地図を買うためだ。月末に予定している山行の準備である。新宿の大型

書店で無事購入した。この時まで頭の中には山のことしかなかった。このまま終われば世の中平和だが。

店を出る時、ある本が目止まった。某イラストレーターの新刊書だ。

「もしかしてこれは——雑誌に予告のあった例の豪華本ではないか。出たのか、もう！」

五分後、ずつしりと重い紙袋を手にした私は、足取りも軽く駅へと向かうのであった。衝動買いはやめよう、買うのは十分考えてから、と誓ったばかりなのに。またやってしまった、嗚呼。

——かくして本は増え続ける。
本箱さん、床さん、ごめんなさい。

チエーホフを読む（13）

ウオロージヤ

藤倉 一郎

ある夏の夕方、内気で病弱で見た目もパッとしない一七歳の少年は数学の試験を明日にひかえて、二年も落第している今度、試験に失敗したら放校になるのが少年を憂鬱にしていた。

それに母とシュミーヒン家に来て、いることが、彼の自尊心を苦しめた。シュミーヒン家の夫人や姪は彼と彼の母を貧しい親類の居候のように見下していたのである。

それに少年は、今まで経験のないシュミーヒン夫人の従姉妹アンナに恋心をいだいていたのである。三〇歳くらいの人妻なのだが、健康そう

でいつも微笑んでいた。美人でもなく若くもなかったが、彼女の夫は建築家で週一回この別荘にやってきて帰っていくのだった。彼女はニュータと呼ばれていた。ニュータの姿を眺め、その美しい声を耳にしたいという強い欲望を感じていた。あずまやの暗い片隅でぼんやりしていると、ニュータがやってきて

「ウオロージヤ、あなたなのね、こんなところで何をしているの？ 考え事？ よくそうやって、何もせずに考え事ばかりしてられるわね、気が変になるわよ」ニュータは水浴場から戻ったところで、ぬれた髪がひたひたに張り付いていた。

「どうして黙っているの？ レディが話しかけているのに黙っておるなんて失礼よ、いつ見ても哲学者みたいに座り込んで、考え事ばかりしている。生氣とか情熱なんか全然ないの

ね。あなたくらいの年頃には人生を
楽しんだり、とびまわったり、おしゃ
べりしたり、女の人を追いかけたり、
恋をしたりしなければいけないわ。」

「あなたがどうしてそんなに野暮つ
たいかわかる？女性にとりいろいろと
しないからよ。どうしてとりいろ
うとしないの？確かにここには若いお
嬢さんはいないけれど、よその奥さ
んを口説いたって一向にさしつかえ
ないじゃないの。たとえば、どうして
私を口説こうとしないの？」

「黙々として孤独を愛するなんて、
ひどく高慢ちきな人間でなければで
きない真似だわ」

少年は思いきつて「ぼく、ぼく 僕
あなたが好きなんです！」と口走つ
た。何一つ考えることも、理解するこ
ともできぬまま、ニュータに近づき
その手首をつかんだ。目がくらくら
して涙がにじんできた。ウオロージ
ヤはニュータの笑顔をちらと見て、

不器用に両手を彼女の腰にまわした。
「ウオロージャ、あなたは如才のな
い愛想の良い人間にならなければだ
めよ、だめよ、さあ放してちょうだい
あたしくわ、放してつたら！」

ニュータは自由になると、歌をく
ちずさみながら、あずまやを出て行
った。少年は年齢からいっても、容貌
風采からいっても、社会的地位から
いっても、およそそんな権利はない
と思われるのに、身分のある人妻の
腰に手をまわすような振る舞いをや
つてのけたことが恥ずかしかった。

すぐにでも自宅へ帰りたいが仕
方なしに、家の中に入ろうとした
ときシュミーヒン夫人と母とニュー
タが話ながら笑っているのが聞こえ
た。聞き耳をたてるとニュータの声
だった。

「本当ですよ、私自分の目を信じ
かねたほどですよ！あの子が恋を
打ち明けて、その上私の腰をだきし

めたんです。あの子とは思われませ
んでしたわ」少年は駆け足で逃げ出
して外気にとびだした。母は泊めて
もらうのでひとりで帰ってというの
で、ひとりで駅へむかった。

「たいしたことじゃないさ、俺が腰
を抱いた時だって、あの人はずを払
わずに笑っていたもの。つまり、悪い
気はしなかったわけだ。もしいやだ
ったら怒るはずだ」

ウオロージャは今になってみると
あのあずまやで、もつと大胆になれ
なかつたことが残念だった。それで、
あんなチャンスを再現することはた
やすいことだ。そうだ、汽車に乗り遅
れたといって引き返そう。シュミー
ヒン夫人と母とニュータと姪の四人
はテラスでカードをしていた。彼女
たちがカードを戦わしているあいだ
じゅう、ウオロージャは傍に座って、
期待を胸に膨らませていた。

暗いところでニュータに近寄り腕

をとって抱きしめるのだ。言葉など交わさなくていい、しかし夜食の後女性たちは庭に散歩におりずにカードをつづけた。夜中までカードをつづけて、寝室にひきあげた。

「何から何までバカけている。」ウオロージャは寢床に入りながら腹を立てた。明日の試験のことを考えるのは気色わるかった。退校処分も別におそれなかった。

夜中にニュータが姪が腹痛がするということで、薬を探しにきた。少年は自分の暗い部屋でニュータの手を握り「愛します」と囁いた。ニュータはそつと廊下をうかがって誰もいないことを確認すると部屋に戻ってきた。少年は全生涯を捧げ、永劫の苦痛にさいなまれても悔いがないとおもえるような、かつて知らなかった幸福感を味わった。しかし、三十秒もたらずにそれは不意に消えた。自分自身にも嫌悪の気持を覚えた。ニュータ

の長い髪、ゆったりしたブラウス、足音や声までウオロージャには醜悪なものに思われた。

十一時近くになって起きて食事をした。ニュータはロシヤ風の服をきていた。夫の建築家は陳腐な駄洒落をとばしていた。ニュータはことさらに大きな声で笑い、少年の方を眺めて、昨夜の出来事が、少しも彼女の心を騒がせていないことや少年と食事していることなど眼中にないことを思わせた。

三時に母と少年は馬車で駅へ向かった。少年は母をこつぴどく罵った。町では二人は二部屋をかりて住んでいた。ここでも少年は母を攻撃したので、母は泣き出してしまった。少年は隣室の中年のフランス人の部屋に入って、机の上にあったピストルを口に入れて引き金を引いた。

この作品は発表当時「彼の初恋」と

いう題だった。それではウオロージャはニュータと深い関係にはいらなかったし、自殺もしなかった。徹底的に書き改められたこの「ウオロージャ」では、感受性の強い少年の心理と自分とニュータに対する嫌悪感や反撥感がみられ、少年の心情が鮮やかに描かれている。傑作といわれる所以であらう。

万国の労働者よ、団結せよ

豊泉 清

◆ドイツ語編

私が医学生の際はドイツ語の全盛期だった。教授は臨床講義でドイツ語の単語を連発し、医師になってからはドイツ語でカルテを書かされた。ドイツ語とは言うものの、日本語の文脈の中にドイツ語の単語を散発的

に挿入するだけだから、系統的な外国語としての知識は全く身に付かなかった。時を同じくして英語の医学書的大海賊版も出回り始めた。つまりドイツ語から英語への移行期だった。遅ればせながら医学英語にも挑戦してみたが、遺憾ながら全く身に付かなかった。では60数年前に愛用したドイツ語辞典を繙いて目にした名言をいくつか挙げてみよう。

Wo der Anteil sich verlier,
verlier sich auch das Gedächtniss.
「興味が失われると記憶もまた失われる」

「いつも記憶力が弱くて…」と嘆く人は、最初から覚えようとする意欲や興味がないから…と解釈できる。興味を持って自発的かつ意欲的に取り組み、いくらでも楽々と覚えらる。学習という行為の核心を衝く名言だと、私は評価している。

Lieber zum Wirt als zum Apotheker.
「薬局へ行くより飲み屋へ行く方が良い」

薬代より飲み代が払える方が健康的である。「酒は百薬の長」のドイツ版である。

Je schöner die Wirtin, desto
teuer der Wein.

「マダムが美しければ美しいほどワインが高く」

そのような雰囲気飲み屋では、
ついつい飲み過ぎてしまうのが男性客の弱みである。

Es ersaufen mehr Leute im Wein
als im Rhein.

「ライン川で溺れる人よりワインに溺れる人の方が多い」

Glück im Spiel, Unglück in der

Liebe.

「遊びで幸福、愛で不幸」
ギャンブルで大儲けをしたら、恋人に振られた。「天は二物を与えず」のドイツ版である。

Für die Reichen hat Gott Medizin
gemacht, für die Armen die
Gesundheit.

「神様は金持ちの為に薬を、貧乏人の為に健康を創った」

貧乏人が病気になる薬が買えないから、神様は貧乏人が病気に罹らないように健康を授けた。私はお陰様で現在まで健康だから、ドイツ人の倫理に基づけば貧乏人という理屈になる。

◆ラテン語編

Homo sapiens

私が高校時代に初めて覚えたラテン語は、「ホモ・サピエンス」という

人間の学名だった。医学専門用語の大半はラテン語である。医学部の教育は専門用語だけを散発的に暗記するだけで、ラテン語を外国学として系統的には教えなかった。そこで入門書や辞書を買ひ込んで、ラテン語の初歩の初歩を独学で細々と嚙つてみた。

vox populi, vox Dei.

「民の声は神の声」

朝日新聞のコラム「天声人語」はこの格言の漢文調の和訳である。

spero dum spiro.

「呼吸をしている限り希望がある」

死ぬまで希望が持ち続けていられれば最高に幸せな人生であろう。一字違いの希望のスペロと呼吸のスピロが韻を踏んで快い音声のリズム感を醸し出している。

alea iacta est.

「骰(さい)は投げられた」

ローマ帝国のジュリアス・シーザーの言葉である。高校時代に同じ意味の *the die is cast.* という英語を教わった。「死ぬ」と同じ綴りの *die* がサイコロを意味する。その複数形が *dice* (ダイス) である。賭博場ではサイコロを二つ同時に投げるのでサイコロと言えば複数形のダイスが一般的に使われるそうである。

vini, vide, vici

「我来たり、我見たり、我勝てり」

やはりジュリアス・シーザーが戦場からローマに送った手紙文だそうである。*V.*で始まる動詞の過去形が三語並んでいるだけである。

citius, altius, fortius.

「より速く、より高く、より強く」

近代オリンピックの標語である。

形容詞の比較級が三語並んでいる。

homo hominis lupus.

「人間は人間にとって狼である」

「人を見たら泥棒と思え」に相当するという解説が辞書に載っている。

qui beneficium dedit, taceat, narret, qui accepit.

「恩恵を施した者は黙れ、恩恵を受けた者は語れ」

恩恵を施した者が吹聴するのは好ましくない。恩恵を受けた者が知らん振りをしているのも好ましくない。

parvum montes nascetur ridiculus mus.

「山が陣痛を起こして一匹の鼠を産んだ」

大山鳴動鼠一匹の元となった格言である。前宣伝が大袈裟な割には結果がお粗末な譬えである。

ars longa, vita brevis.

「芸術は長し、人生は短し」

高校時代に art is long, life is short という英語を教わった。古代ギリシヤの医聖と称えられたヒポクラテスが医学生に「医学は難しいから生涯学び続けても習得できない」とお説教したのが、この言葉の起源と言われている。英語のアートに相当するラテン語のアルスは長い修練を積み重ねて習得した技能という原義だから、絵を描いたり、楽器を演奏したりする芸術的な技能だけでなく、医学の研究も定義に従えばアルスの部類に属する。ゆえにアルスを「芸術」と訳すと、医学が無視されたようであり、ヒポクラテスの真意が全く伝わらない。私は「芸術」を不適切な訳語と感じている。

mens sana in corpore sano.

「健全な精神は健全な肉体に宿る」

やはり高校時代に a sound mind

in a sound body という英語を教わった。元のラテン語は「健全な精神が健全な肉体に宿ればいいなあ」という願望文だった。良い事が同時に二つ揃うことなど、現実には滅多になり。本来は「天は二物を与えず」という意味だったが、日本では「宿る」という誤訳の断定文が流布してしまった。願望と断定とは大違いである。私は歴史に残る大誤訳だと思っている。もし断定文ならば「不健全な精神は不健全な肉体に宿る」とも解釈できるから、病人の精神は不健全なのかと反論したくなる。癌の末期でも並の人以上に強靱な精神の持ち主もいる。余談だが「宿ればいいなあ」という願望文であるという解説が載っている最新刊の英和辞典を目にしたことがある。願望文の和訳が流布し、定着することを祈っている。

◆中国語編

開業して数年経った頃に、某製薬会社が企画した漢方薬の講習会に参加したことがある。漢方医学は大学で教わった西洋医学とは全く異なる理論体系で、大いに新鮮な刺激を受けた。漢方医学の講義には難解な漢字語が次々に登場するので、中国語の知識があれば、学習の参考になると感じて、独学で中国語を嚙り始めた。では中国語辞典で目にした名言をいくつか披露してみたい。

病從口入、禍從口出

「病は口から入り、禍は口から出る」
日本では単に「口は禍の元」と言うが、中国語は入と出を対にして表現している。

少年不努力、老大徒傷悲

「若いときに努力しないと、年老いてから徒(いたずら)に悲しむだけで

ある」

勉強は若い時からやっておけというお説教であろう。

医老能治病、僧老会念経

「老医は治療が上手、老僧は読経が上手」

医師と僧侶が対になっている。医者に診てもらうなら、経験豊かな老医に限るようである。

好事不出門、悪事伝千里

「善行はなかなか世間に知れ渡らない。悪事は瞬く間に千里先まで伝わる」

行要好伴、住要好隣

「旅には良い伴侶が必要。住むには良い隣人が必要」

「旅は道連れ、世は情け」の中国版である。

有縁千里来相逢、無縁眼前不相識

「縁があれば千里離れた人とも知り合える。縁が無ければ目の前の人とも知り合えない」

人の出会いは縁有ればこそである。

樹大招風、人高惹禍

「高い木は風当たりが強い。目立つ人は禍を起こし易い」

「出る杭は打たれる」を風当たりの強い高木に譬えている。因みにロシア語には「雷は高い木に落ちる」という格言があり、出る杭は…に相当するという解説が添えてある。

財能通神

「金さえあれば神様でさえも思い通りに動かせる」

金が万能の世の中である。日本の「地獄の沙汰も金次第」に該当する。

双親有終年、銭有尽日

「両親の死ぬ年が必ずある。金の尽き果てる日が必ずある」

「いつまでも有ると思うな親と金」の中国版である。

親是親、財是財

「親は親、金は金という直訳になる。たとえ親子の間でも、金銭に関しては他人のように振舞えと読み取れる。漢民族の金銭感覚だろうか。」

樹欲静而風不止、子欲養而親不待

「木が静かにしていいたいと欲しても風が止まない。子供が親を養おうと願っても親は待たない」

「孝行をしたい時分に親はなし」の中国版である。長寿社会の現代日本には「孝行をしたくないのに親がおり」と堂々と言つてのける親不孝者もいる。

◆ギリシヤ語

学生時代に α (アルファ)、 β (ベータ)、 γ (ガンマ)、 π (パイ) などのギリシヤ文字を、科学や数学の記号として散発的に覚えたが、ギリシヤ語を外国語として系統的には教わらなかった。そこでギリシヤ語の入門書を買って込んで、独学で細々と嚙つてみた。ではギリシヤ語の参考書で目にした名言をいくつか紹介してみたい。(図1参照)

1. 「二羽の燕では春にならない」

一羽の燕を見て、もう春だと決め込むと、翌日凍えるほど冷え込むこともある。早計の戒めとしてよく使われる。高校の英語の授業で、*One swallow does not make a summer.* (一羽の燕では夏にならない) という格言を教わった。ギリシヤ語は春だが、英語では夏である。

2. 「転がる石には苔が生じない」

高校の授業で *A rolling stone gathers no moss.* という英語の格言を教わった。

3. 「あまたれ石を穿つ」

やはり高校で *Constant dripping wears the stone.* という格言を教わった。

4. 「沈黙が言葉に勝る場合もあり、言葉が沈黙に勝る場合もある」

日本では「沈黙は金」の一方だけが知られている。

5. 「汝自身を知れ」

アポロン神殿の柱に刻まれている言葉だそうである。人間は永遠不滅の身ではなく、必ず死ぬ運命にあることを自覚せよという意味だそうである。私は個

人的には、知彼知己者百戦不殆(彼を知り己を知れば百戦あやうからず)という孫子の兵法の論理の方が深い含蓄が味わえると感じている。自分

1. *μία χελιδὼν ἔαρ οὐ ποιεῖ.*
2. *λίθος κυλινδόμενος τὸ φῦκος οὐ ποιεῖ.*
3. *πέτρην κοιλαίνει ῥανὶς ὕδατος ἐνδελεχείῃ.*
4. *ἐστὶ δ' οὐ σιγὴ λόγου/κρείσσω γένοιτ' ἂν, ἔστι δ' οὐ σιγῆς λόγος.*
5. *γνώθι σαυτόν.*
6. *ἐν οἴῳ ἀλήθεια.*
7. *μίαν μὲν γλῶτταν δύο δ' ὦτ' ἔχουσιν.*
8. *οὐδεὶς γὰρ οὕτω ἀνόητος ἐστὶ ὅστις πόλεμον πρὸ εἰρήνης αἰρέεται· ἐν μὲν γὰρ τῇ οἱ παῖδες τοὺς πατέρας θάπτουσι, ἐν δὲ τῷ οἱ πατέρες τοὺς παῖδας.*

(図1 ギリシヤ語の格言)

自身を知るだけでなく、相手を知ること重要と思われる。

6. 「ブドウ酒の中に真理がある」

素面（しらふ）の時には絶対に口にしない本音も、酒を飲むと、ついつい酔った勢いで喋ってしまうという意味である。

7. 「舌は一つだが耳は二つある」

自分で喋るのも重要だが、他人の話を真剣に聴く方がもっと重要という教えである。

8. 「平和の時には子供が親の葬式を出す。戦争の時は親が子供の葬式を出す」

戦争では大勢の若者が戦死するから、親が子供の葬式を出すという悲劇が生じる。古代ギリシヤの歴史家・ヘロドトスの言葉だそうである。

◆ロシア語編

私が医学生だった昭和30年代はマルクス思想が隆盛で、マルクス主義者でなければ知識人にあらずという風潮だった。現代はマルクス主義思想や唯物史観を口にする人は皆無で死語同然である。

当時は歌声喫茶という店があり、大勢の客がアコーディオンの伴奏でロシア民謡の合唱に興じていた。私も時代の風潮の影響を受けて、ロシア語の入門書や辞書を買って込んで独学で細々と嚙り始めた。私の同級生にマルクス主義の心酔者は大勢いたが、ロシア語を学ぶ者は皆無だった。思想の心酔と外国語の独学は別物のようである。ではロシア語の名言をいくつか披露してみたい。（図2参照）

1. И медведя плять учат.
2. Два медедя в одной берлоге не уживутся.
3. Про волка речь, а он навстречь.
4. И волки сыты, и овцы целы.
5. Паршивая овца все стадо портит.
6. У кого счастье поведется, у того и петух несется.
7. Курочка по зернышку клюет, да сыта бывает.
8. Кто бывал на коне, тот бывал и под конем.
9. Кто не работает, тот не ест.
10. Количество переходит в качество.
11. Пролетарии всех стран, соединяйтесь.

（図2 ロシア語の格言）

1. 「熊でさえ踊りを教え込むことができる」

サーカスで曲芸を演じる熊がいる。だから人間でも教育できるという論理だろうか。教育のない人間は熊にも劣ると、ロシア人は認識しているようである。

2. 「二頭の熊は一つの穴の中で仲良く暮らせない」

熊は単独行動を好む動物である。「両雄並びに立たず」に相当する。

3. 「狼の話をすると狼が現れる」

狼は悪魔の創造物と信じられており、狼という言葉が口になると、本当に狼が目の前に現れるという俗信があった。つまり絶対的口にしてはいけない忌み言葉である。日本の「噂をする」と影」と一脈相通じるものがある。

4. 「狼も満腹、羊も無疵」

狼が羊を襲って満腹になれば、羊

飼いは大損害を蒙る。羊飼いが羊の群れを嚴重に見張っていれば、狼は餌にありつけず、空腹で苦しむ。敵対する者を同時に満足させるのは至難の業である。「八方を丸く治める」に相当する比喩である。ロシアには広大な森林があり、熊や狼が棲んでいるから、格言にも熊や狼がよく登場する。

5. 「二頭の皮膚病の羊が群れ全体を損なう」

一頭の羊が伝染力の強い皮膚病に罹患すると、たちまち群れ全体が感染し、羊毛で収入を得る牧畜業者は大損害を蒙る。一人の悪徳者のために集団全体の信用が失墜する比喩である。

6. 「運の良い家では雄鶏でさえも卵を産む」

幸運と雄鶏の産卵を組み合わせた

表現はロシア語以外には見当たらないようである。

7. 「鶏は穀物の粒を一粒ずつついで満腹になる」

「塵も積もれば山となる」のロシア版である。

8. 「馬の上に居た者が馬の下にも居た」

馬に乗ると落馬の危険もある。中国の「人間万事塞翁之馬」の話を連想させる表現である。

9. 「働かざる者食うべからず」

ソ連共産党の標語のように思われていたが、実は聖書に載っているキリストの言葉に由来する。

10. 「量が質に転化する」

私は何のことか全く理解できないが、唯物史観の重要な命題の一つだ

そうである。マルクス主義に心酔していた同世代の者たちは、こんな抽象的な言葉を口にしながら哲学思想を論じていた。

11・「万国の労働者よ、団結せよ」

60数年前に出版されたロシア語辞典には、こんな言葉も麗々しく載っていた。表題の解説が最終段落になってしまった。悪しからず。

学校で教えないラテン語、中国語、ギリシヤ語、ロシア語の初歩の初歩を独学で細々と嚙り、辞書や参考書で目にした名文や格言を片端から雑記帳にメモしておく習慣が身に付いた。手の内を明かせば、本稿は山のように溜め込んだ雑ネタの中からいくつか選んで列挙してみただけである。

記備談語・8・(28・12・29・03)

佐藤 玄祥

音無い車

音も無くすれ違った車に一瞬冷やつとする。耳が遠くなったせいばかりでは無い。電気自動車が静かな運転をしているのだ。

国は電気自動車や高級モーターカーの無音の事故対策に、何かしらの音を出して知らせる装置を、当該車に必ず装着することを決定した。ガソリンでエンジンを作動する普通車と違って、電気とガソリンを使っているハイブリッド車はモーターで走行するため静かだ。騒音の町中であれば尚更、ゆっくり走られたら近づいても気が付かない。目の不自由な方や高齢者が車輛事故に遭う可能性は高い。

排出ガス規制問題と違った事故対

策にワザと音を出す方策を2018年3月から全ての新型車輛に設置されると言う。静かなるために義務付けられる。騒音を撒き散らす方が良い訳はない。おかしい話だが当然である。(28・12)

オプジーボ50%値下げ

がん免疫治療薬「オプジーボ」が2月から50%緊急値下げが決まった。薬価基準は2年に一度再評価され、流通量により適性公定価格が決まり、その間の安定供給で、企業・医療関係は終始していた。開発費に転用されるのだ。

皮膚がん少数患者(470人)の対象に「オプジーボ」が価格決定された経緯は報道の通りで一人年間3500万円懸かる。肺がんに適応が広がり、高額医療費が問題化し、経済財政諮問会議と安倍首相の意向で厚生労働省は政治決着により決定した。

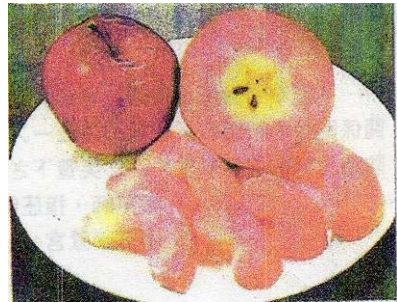
参議院予算委員会で、海外販売価格の質問に、「米国約30万円・英国尾14万円」と日本の半値以下の答弁があり、世論が反発したのだ。メーカー小野薬品工業（大阪）は対象患者を広げる米国王手の実施した臨床試験の有効結果が得られなく、結果株価は下落した。「海外で安く日本で高く売るのが不評の一因でもある。

（28・12）

紅いりんご

戦後すぐの荒廃期に明るいメロデーで消沈した心の慰めで歌われ、懐メロの定番だったサトーハチロウ作詞・並木路子さんの歌っていた「りんごの唄」は「赤いりんごに唇寄せて」の出だしで、りんごは赤いものだった。

「りんご」は青森県・長野県等の寒冷地が特産で、紅玉・スターキング・ふじ・ゴールドデリシャスなど、



カットした「紅の夢」。果肉までしっかり鮮やかな赤に染まっている

赤・青・黄色いろとりどりだが固い皮を剥くとすべて黄色である。此の度弘前大学が品種登録（No.19259）した「紅の夢」は肉が赤く、味の問題も改良された。紅いりんごの誕生である。1994年塩崎雄之輔弘前大学名誉教授の育成の偶然交配による。先生への神様の贈り物と言われ、東京で1個500円。

中身の赤い（写真）品種改良には長野県も負けではいけない。

尊称

人に対する呼称は、日本語は大変複雑である。

一般的には親しみを込めて、さん・君・ちゃん、更ためて「様」を付けて呼び合い、社会的地位では、先生・社長・専務・課長・マスター・チーフ・師匠等職業上の役柄を、又ラフに大将・棟梁・おやじ・おふくろ等を使っている。今話題のアメリカのトランプ氏は次期大統領を頭に付して地位を表明している。複合敬称もあり、天皇陛下・大臣閣下、身近には校長先生・社長さん等がある。

スポーツ選手、特に野球・大相撲・ゴルフ等では時に呼び捨てにし、親しみが籠もっている。仲間意識では通常敬称は付けないが、独身なら「君」既婚なら「さん」が無難でコミュニケーションがとられている。僧正・法

（28・12）

主・猊下(げいか)等高僧の呼称はそれぞれの意義がある。加齢と共に、尊称は兎も角、翁(おきな)に對し嫗・嫗(おうな)がある。親しみを込められた好々爺(女性では何というか?)になりたいものだ。(28・12)

花の名は

明治安田生命保険では恒例の今年産まれた赤ちゃんの名前ランキングを発表した。

男の子は「大翔(ひろと、やまとはると)」、女の子は「葵(あおい、めい)」がそれぞれ2年連続トップであった。特に女の子は、2位「さくら」3位「陽菜(ひな、はるな、はな)」5位「結菜」5位「咲良」10位「花」など花のイメージが多い。5位の「莉子」はジャスミン、何年振りかで「子」がベスト10に、男児にも9位に「葵」が登場する。元気に育って美しい花を咲かせ、その願いが女の子の子

名前を選ばせるのかもしれない。

韓国大統領が任期満了を待たず大統領を辞任するらしい。友人・側近による職権乱用事件が国民の強い批判を受けての結果である。

權(ムクゲ)は韓国の国花で大統領の名前「朴槿恵(パク・クネ)」に使われて居る。『道の辺の木槿は馬に食われけり』(芭蕉)は譬えが悪いが「槿花一朝」栄華のはかなさの譬えもある。花の名はいろいろである。(28・12)

高齢者医療費負担増加

厚生労働省は医療保険制度見直し案を提示した。高齢者にとつて厳しい負担増になる内容である。高額医療費が特定の疾患に對し付与され、健康管理を順守している多くの老人がその使用に不公平感を感じて居る上に、更に今後起こり得る高齢者の医療費と保険料の両面での負担増を

求めることになる。

高齢化による医療費増加に對し、これから高齢者の治療への高額出費への支援を段階的に削減する方向である。(1) 70歳以上の負担上限額の引き上げ。(2) 75歳以上対象の後期高齢者医療制度で低所得者などの保険料軽減特例廃止など、2018年8月迄に、負担上限額を引き上げる方針だ。

自らの健康保持のため、日々努力している多くの高齢者も現在療養中の方々も、今後は経済的を含めて受診を控える人が出ないよう両面から政府案を理解し考慮しなければならぬのだ。(28・12)

高齢者の入浴

読売新聞にエッセイスト黒井千次さんのホテル浴室事件が書かれていた。高齢者の入浴には、私なりの健康談議として一言を持って居るつも

りだが、黒井さんの事態は人事（ひとごと）ではない。個室での入浴中、排水しながら滑り、立ち上がれず、支える手すりも無く困惑されたとのこと。水量が減り、浮力が落ち、筋力が緩んだ結果、起き上がれなかった。以前、店頭で同じ姿勢で腰の筋肉が固着され、動けなかった話（26・11）と逆の状態である。

高齢者の入浴では、寒暖の差や貧血、心筋梗塞等で意識を失い、水死するケースがある。無意識でも栓を抜ければ助かるのだが。私の銭湯巡りも、そんな事柄を避けるためと大勢でマイナスイオン10000を満喫出来たり、HSP入浴法（28・01）の実行のため外部の浴場を利用し、ラドン・サウナ・岩盤浴・温泉等も味わって居る。特に夏冬を通しての水浴が皮膚・血管の鍛錬でHSP（ヒートショックプロテイン）を増加させ、体力維持に役立つて居る。年寄りの冷

水は中学時代の冬の襖（みそぎ）が懐かしい。
（28・12）

残心と思いやり

武道に携わる者として「残心（ざんしん）」という言葉は、武道に於ける心構え（一つの動作が終わっても尚、緊張を解かないこと（大辞林））であって、不満や未練が残る「こころのこり」とは感じない。剣道や空手道で技を決めた後、反撃に備える姿勢を取る。これ即ち「残心」であり、日本剣道形では最も重要な姿勢であり、ポイントである。

「礼節を尊び、礼に始まり礼に終わる」の教えは、少年剣道指導での日常の所作であり、厳寒酷暑にも「正座」の声で一斉に座禅を組み、無念無想の境地に入る。出来る出来ないは別としても、幼時からの習い事の一端で、相手を重んじる事で「残心」が指導出来るのだ。

福島からの原発避難者の転入生への「いじめ」問題が起きているが、相手あつての自分であり、思いやりの心が培われるのだ。集団による下劣な行為であり、絶対慎まなければならない。
（28・12）

薬価改定

現在は二年に一度の医薬品（調剤薬品）の価格（公定価格）改定を毎年実施に切り換え、医療費抑制を図るのが目的で、政府の制度改革に向けた基本方針が20日決定した。

高額な「ガン」治療薬（オプジーボ）の効能の追加や当該薬の対象患者が増加し、販売額が急増した医薬品は、新薬が保険適用される年4回の機会を活用し、値下げし来年度からの実施を目指している。毎年となると供給卸や調剤薬局での在庫管理と値引き（値上げは無い）調整が業務超過になる。薬価調整自体の正確性

や手法も検証し、公的医療保険取り扱い全品目(2万品)の薬価改定により、増大する保健医療費の抑制と診療報酬の値下がり繋がる。

製薬企業の新薬開発意欲と採算性を考慮し、国民皆保健の中での医療費抑制とささやかな自己防衛の健康管理で傍観出来るならばそれに越したことは無い。(28・12)

寛容と和解

ハワイ・オアフ島での母の従姉妹の高松茂子さんが96歳を迎えられた。戦後の救援物資恵贈の御礼と長寿のお祝いに、私共5兄妹が表敬訪問(2012)して6年、それ以前に(2007)指庄学校主催のハワイ医大での解剖実習に参加した際、先般12月28日「真珠湾慰霊式典」が日米両国の首脳の「和解の力」の確認で執り行われた「アリゾナ記念館」に高松さんに案内され、館内を見学

したことを思い出した。

高松さんには日系アメリカ人として、開戦時どんなにかご苦労されたことであつたか。弟のジョージ氏が米国軍人として第442連隊に所属し、ヨーロッパで活躍されながら母国と敵対した複雑な思いは、慰霊式典でのオバマ大統領と安倍首相のスピーチは「寛容と和解」によって、全ての敵同士が憎しみを乗り越えて、お互いを許し合う「心の終戦」の第一歩として認め合う事になる。残念ながら謝罪と反省なき演説ではあつたが、米国内では歴史的で厳肅な訪問と評価された。次期大統領ドナルド・トランプ氏の外交政策では絶対「戦争」を拒否して欲しい。(29・01)

筆洗まる写し

東京新聞50年代の筆洗子、故林伸太郎さんのコラムは知識の源泉であり、娘の義父としてのお付き合いか

ら、今も「筆洗」欄を毎日読ませてもらっている。

先頃「筆洗まるつと写しノート」が出版された。「筆洗」とは「天声人語」「編集手帳」など、各新聞社の時事解説や寸鉄人を刺すキラリ光った警句や名言を限られた枠内にコラムとして執筆する、いわば新聞社の顔であり、朝刊一面を彩っている。

黒塗りの議会答弁書が問題になっている。戦後連合軍の指示か、黒塗りにして過去を消し去った事実を思い出した。都合の悪い事は闇に葬るのは黒塗りの筆であつたのか？ 筆洗子の思いは巻末の最終ページに綴られている。

戦時中の報道の過ちへの反省と国民を欺いた結果、真っ黒に汚した筆を洗って出直す決意を、一面コラム「筆洗」のタイトルに託したという。

(29・01)

二刀流

剣道古流で大太刀・小太刀を両手で操る剣術で、宮本武蔵の創始した「二天流」が著名。二つの事柄を一度に制御することで、卓越した技能が無ければ成し得ない。

今や二刀流と言えば「常識を覆す進化」として絶賛のプロ野球・日本ハムの大谷翔平投手を指している。2016年スポーツ野球部門で、投手と指名打者でベストナイン同時受賞そして、パリーグ最優秀選手(MVP)の活躍は称賛に値するものだ。

7月右手指負傷で規定投球数に達しなかったが、終盤の勝負所での投球は頼もしかった。9月28日リーグ優勝を懸けた西武戦で15奪三振・1安打完封、初の胴上げ投手に。球速も何と最高の165キロを3度もマークした。

22歳の若さの1994年生まれでは、フィギュアスケート羽生結弦・

競泳萩野公介ら世界に活躍する精鋭の一人で「羽生世代」から「大谷世代」へと呼ばれるため、世界を取る「侍ジャパン」で結果をだすと頼もしい言葉を信じたい。(29・01)

歩行速度と生存率

アメリカで、約34000人対象の21年間追跡データによると「歩行速度と生存率は比例する」と言われ、65歳を基準として「しつかり・速く」歩いた方の約80%が、10年後も健在であると証明された。一般的に脚力の差は先天的と言うより、個々の生活環境に因るといえる。健康寿命(最後まで自立し、自分らしい人生を生きる年月)の延伸には、中高年期に於ける元気な歩行で脚力を付ける。つまり「速く・しつかり」と歩くことが如実に示されたデータなのだ。脚(足)は第二の心臓と呼ばれるように、しつかり歩くことで血流を盛



んにし、肺からの有酸素運動で内臓の活性化と、脳へ豊富な酸素を補給し脳を活性化し、認知症や脳軟化を

防ぎ、平均寿命と健康寿命の差を縮めたい。そのためにはバランスの取れた食事で、筋肉(筋力)を増し、骨折・転倒を防ぎ、胸を張り、大手を振って歩行速度を上げ、大いに闊歩しよう。年賀状で高齢者には菜食主義に加えて筋力増加のため肉食も必要と記した。このデータと三浦雄一郎さんの歩き方を勧める。(29・01)

福德の森

新年初詣では日本橋の福德神社にした。コレド室町2の側(そば)、小さな森は地主「三井不動産」の寄贈に因って建造された。江戸開闢以来徳川政権の庇護によって、現地「付近」

の産土神（うぶすながみ）である福德神社は戦後数寄の運命にあった。戦災で焼失し、日本橋再開発の影響で、三井ビル屋上に上がったたりした小さな神社は戦前、緑の少ない遊び場でもあった。

現在、『芽吹き稲荷』も併設祭祀りされ、日本橋七福神詣でと共に、日本橋の名所になり、経済中心の街から『日本橋』を中心に「コレド室町2」や「三越百貨店」などへ多くの人達で賑わって居る。赤い鳥居が目立ち、森と呼ぶにはまだまだ木々は若い姿だが、歴史と由緒あるこの街に、新たに育って行くものを持つということは、なんだか幸せなことに思われると三井不動産ストーリーに記されて居た。三井さんに感謝である。

（29・01）

生涯青春と生涯現役

敬愛する『星桂三先生』作詞作

曲による「生涯青春歌」（28・09）を蜜カラ風（げた履き・腰手ぬぐい）で、あちこちで歌って来た。先生から間奏に『サムエル・ウルマン』の詩「青春の譜」の中の一部『青春とは肉体の若さではない 心のありようである 心に夢を持ち その夢に向かって精進努力する すなわち生涯青春である』を語りとして入れてと提言されて実行している。素晴らしい金言である。この歌は85歳の三野昭一（早大名誉教授 先生が歌ったものだったが、輪禍で昨年亡くなられた。一年先輩の年回り、ご一緒に歌いたかったが残念だった。（公掌）

日本老年学会等で「高齢者の定義」を10歳引き上げ75歳以上とすべきと提言があった。時代に即した提言で「生涯現役社会」を目標に、自己の体力に合った社会参加の促進に繋がる。高齢者は75歳以上、65歳からは「准」、90歳からは「超」とする。生

涯現役のための区分である。青春と現役、共通でありたい。

（29・01）

酉年

今年は酉年、戴いた年賀状には色々な「にわとり」のイラストでカラフルに楽しませて頂いた。十二支（えと）には、架空の「竜（龍）」を除いて比較的身近な動物が登場する。10番目の「とり」は鳥でも「にわとり」、神代の昔から『天の岩戸』でもお馴染みの「鵄」が当てはめられている。紀元前に中国で古代から動物を組み合わせ、人々に分かり易く広めたため、もともと干支の字に動物の意味は無い。十二支の「酉」は酒樽の形である。漢字の「鳥」はその省略形「隹（ふるとり）」という。

隹から集（木に）、推（鳥占い、推し量る）、誰（呪い懸けたのは誰）、隻（又は手の意味）、雙（双）、進（道を

行く)、唯(口は器・神の判断)、雖(器が虫に侵され損なう)、奪(死体の衣から死者の霊を)。西から酒、尊(茜と寸・手で神前に捧げる)、樽(木製)、配(人が跪く)、医・醫(治療に矢や酒を使う)。文字の成り立ちから「とり年」の鳥と西を調べた。『禍を申(さる)』とし過ぎて福を酉(とり)年。』 (29・01)

海賊と呼ばれた男

「田岡商店社歌」がDAM(通信カラオケ)で新曲の宣伝をしていた。聞き慣れぬ社歌が何故? と思ったら今注目のタイトルの主題歌であった。420万突破のベストセラー作家『百田尚樹』氏の同名小説を「永遠の0」チームが完全映画化したもので、岡田准一氏の挑戦である。

内容は田岡商店「モデルは出光興産創業者出光佐三翁」一代記で、20代から90代までを一人で演じた岡

田氏を始めとした俳優陣が光る。石油の将来性を見抜いた田岡鉄三(出光佐三)が国内石油販売業者や石油メジャーの様々な壁を打ち破り、田岡商店を日本のトップ企業に育て上げた物語である。

現実には業界2位の出光興産と5位の昭和シェル石油との合併を創業者側が反対、株持ち合いを断念している。創業者一族の『旧友出光謙介君』が昨年亡くなった。名の如く驕らない謙虚な紳士であった。DAMと映画と友人の三題話。(29・01)

風見鶏

定見を持たない日和見主義で、周囲の状況を眺めて都合の良い側にばかり付く人のこと(大辞泉)。本来は風向計の事で、西洋で寺院の塔の上などに取り付けてある。曾ての宰相にこの名が冠されたことがあった。転々と渡り歩く様だ。

ポルトガルに行った時、写真のような風見鶏が土産品(スーベニール)として、いろいろな形で売られていた。視点を変えようと、風に向かって堂々と立ち向かっているようでもあり、西年に相応しく、高齢ながら『大勲位』としての存在価値を高められている「中曽根康弘」元総理がお元氣のようだ。最近ペギー葉山さんの『おもいで岬』丘の上のホテルの風見鶏の描写がある。

ポルトガルみやげの栓抜きが西年と中曽根さんを思い出した。

(29・01)



愚直に15年（新横綱誕生）

日本人として19年振りの新横綱誕生である。大相撲初場所千秋楽、前日に初優勝を決めていた大関稀勢の里（田子ノ浦部屋）が横綱白鵬を土俵際逆転、14勝1敗で場所後の横綱昇進を推挙（第72代）された。

中卒で入門、新入幕は貴乃花に次ぐ最速（18歳）昇進、類い希な勢いと期待された「稀勢の里」は30歳。今場所は幕内42人の内訳は外国勢15人・大学出身12人の中、中卒は8人、昔気質の叩き上げの伝統の新横綱誕生である。

初土俵から苦節15年、愚直に相撲道を邁進、多くのファンの期待の中何度も優勝を逃しながら、不屈の精神で賜杯を抱いた「稀勢の里」を讃えた。

30代の力士の多い中、若手がどんどん追いかけてくる。注目の「御嶽海」

は前頭筆頭で2横綱（金星2）・2大関を倒し11勝4敗、関脇昇進の成績だが、小結は確定。実力は関脇級、三賞の内の技能賞を獲得。〃押し〃に徹したご褒美だ。（29・02）

COPDと骨粗しょう症

毎年、薬物乱用防止教育の一環として、高学年児童にアルコールとタバコの弊害を話している。共に依存症について麻薬と同じように、薬物乱用のゲートウェイとして理解させている。表題はタバコの害に関する最近の話題である。

COPDとは息切れ・激しい咳で呼吸困難を生ずる「慢性閉塞性疾患」の事で、帝京大学の研究チームが骨粗しょう症との関連で、背骨を骨折するリスクが極めて高いと報告された。骨粗しょう症は閉経後の女性に多いが、調査では喫煙（タバコ）の弊害による男性の罹患率が高く、中高

年のCOPD患者は推定530万人という。肺の中に炎症が広がり、呼吸機能が低下、酸素不足で痩せ、運動量低下で骨の脆（もろ）さ〃タバコによる骨形成抑制の有害作用〃等が判明した。受診（平均72歳）のX線画像で8割に背骨骨折が、55%は2カ所以上の複雑骨折があったと判明。

（29・02）

現金問屋

神田駅周辺には医薬品の卸問屋が多い。勿論正規の販売商社である。その中で現金問屋が、この度一挙に悪者にされてしまった。元封の「クスリ」を現金で売買する、言わば必要悪の存在として、経営の苦しい医療機関が出入りしていると聞く。

取り扱いが「医療品」だけに商品の

真偽は容器の外箱の元封に懸かっているのは当然である。この度のC型肝炎治療薬「ハーボニー」は、なんと偽造品の上、外箱が無い「シロモノ」と報道された。薬価が一錠54000円とベラボウに高い。東京と奈良で相次いで見つかった。治療中の患者は不安に駆られると思う。実際に薬局から患者に渡ったことで判明したのだ。容器は本物、外箱は偽物、

全く不可思議な事件である。関係当局の完璧な追及と真相究明を望む。医薬品としての権威を懸けて調査して欲しい。薬剤師としての誇りを込めて訴える。

(29・02)

子の未来は？

憲法改定など国会での審議を解り易くニュースキャスターが解説している。そんなTVを見ながら、12歳のご子息が発する言葉にギョツとする母親の投書があった。

「この国は唯一の被爆国で核の恐ろしさを知っているのに、どうして核兵器廃絶に賛成しないの?」「何で借金を膨らませてまでオリンピックをやるの?」「原発は放射能汚染の怖さを見ているのに何で又動かすの?」「私たちに借金を残しては困る」。こんな素朴な疑問を投げ懸けられての母親の困惑が目に見える。

きちんと、解り易い言葉を使って理由を説明して呉れる政府なら、国政が身近に感ぜられ、信頼も出来る。国会での審議問答が「ちぐはぐ」で納得出来ないのは、政府が国民を無視し理解を得ようとしていないからだ。12歳の質問は、この国は子供を守るどころか子供の分まで前借りし、今を豊かにし、残された自然や社会保障も、戦争しない憲法も壊して、後々の君たちを丸裸にしている。未来のことより今の富を護るオトナは見ても振りをして国なのだ。

母親の答えとしては悲しい。

(29・02)

出生数

厚生労働省は昨年、人口動態統計年間推計で2016年生まれの子供数は981000人と発表した。第1次ベビーブーム(1947〜49年)2690000人、第2次(1971〜74年)2090000人とピークがあり、2000年には1000000人を割ってしまった。

出生率の前提となる婚姻行動に劇的な変化が起きたと推定される。出生率は初婚年齢・未婚数・初産年齢・出産母体数・子の平均兄弟姉妹数などに左右される。

25歳以降の結婚が増え、晩産化現象が生じ、更に女性の生涯未婚率が上昇した。晩婚化が進む要因は様々である。

政府自治体の少子化対策も不十分

幻に終わった第3次ベビーブームの陰もちらつく。高齢化の進む中、多くの家庭での賑やかな子供の数が懐かしい。

(29・02)

開票異聞

政策論争より政局争いが前面になってしまった東京都千代田区の区長選挙は現職が五選を果たした。先の東京都知事選に絡み、自民党東京都連と小池都知事の確執が「代理戦争」として対立したことになる。

EU脱退の英国の国民投票や米国の大統領選の経過を顧みると、民主主義の可能性と限界を見つめ直すべき時代に入ったのではないかと、東京新聞の社説は指摘している。

代理戦争が有権者の投票行動を左右し、政治勢力が作り出す空気に押し流され「民主社会」が危ないとメディアの責任の重さを自戒している。曾て、中野区の区議会選挙で私が

選挙管理委員としての際、一票の表示を巡って、最下位と次点の争いになり、上部選管による裁定で「有効」と認められ、全く同数票で抽選逆転事件があった。「ひろし」「ひろこ」のちがいだった。「こ」は女性を意味する。

先月、佐賀県唐津市で、同姓同名（現職と新人）「青木茂」氏が市議に当選した。選管はこの二人に限り、候補者名簿に年齢と現・新を区別したとのこと。

(29・02)

富士山

「日本イコール富士山」は戦後すぐ（昭和24年）競泳の1500m自由形で世界新記録樹立の「古橋広之進」選手（日大）が「フジヤマのトビウオ」として世界にアピールされた日本の象徴は、文化遺産の「富士山」である。その容姿の美しさ、日本の最高峰の山として古来より歌に詠ま

れ、書画に描かれて来た。

都心から富士山まで約100km、曾ては各地でその姿が眺望できる坂として「富士見坂」があり、（JR）山手線の内側に18ヶ所、文京区と港区に多くあった。国土交通省選定の「関東富士見百景」233地点の内、少なくとも6地点で高層ビルのため、眺望が失われたという。

「不死身」に通ずるため江戸開府以来、信仰の山として近間に人工の山や塚を造り、その名残が未だ散見される。江戸期、歌川広重作「名所江戸百景」の版画「するがてふ」（富士山遠景）は、日本橋駿河町現三越本店あたりだ。私の生家日本橋本町4丁目今川橋際、家の前から省線（JR）電車ガード上に戦後まで富士山が見られた。日暮里富士見坂が高層ビルで見られなくなり、パネルを飾るニュースを知った。

(29・02)

Y o u t h (青春)

よみほつと日曜版1面に、皇居前日比谷壕(ほり)に面して建つ「第一生命館」の写真と共に、サミュエル・ウルマンの「青春」1918年作「年を重ねただけでは人は老いない。理想を失う時に初めて老いが来る」の表示を見た。

敗戦によって日本は連合国軍総司令部 (General Head Quarters) G・H・Qの統治により「第一生命館」が接収され、最高司令官ダグラス・マッカーサー元帥の執務室に表題の「詩」を掲げられておられたという。若さと老いを様々な対句表現で綴った作者ウルマン氏は米国でも知る人が少ない「幻の詩人」だったとの事。元帥がこのような詩を胸に、勝者支配政策を進めたエピソードを知り、「詩」のように「情熱を以て理想を追い続ける」当時の偽政者の施策の一端が窺い知れる。星桂三先生も「生涯青

春」の中でも触れ、この詩を最初に教示された(27・01)丁女史に感謝し、更めて戦後日本の青春(12歳と言われていた)は東京日比谷から始まったことを認識した。

(29・02)

健康寿命120歳説

厚生労働省は100歳以上が初の65000人を超えたと発表した。百壽者(女性9…男性1)。森下敬一博士(88歳)国際自然医学会会長は「長寿の謎」解明のための「長寿郷探查」の結果を表題のタイトルで「三五館」より発刊された。著名な森下学説の百壽に対する世界長寿郷の共通の秘訣は、この調査から(1)小食・粗食(2)菜食(3)長息、よく笑う(4)筋トレ(5)セックス「愛情・濃厚」と発表された。これこそ日本百壽者にも共通する「アンチエイジング(抗老)」のツボと判明した。森下調

査で判った長寿者の食事は(1)(2)、そして(3)呼吸法と(4)筋トレでよく働く、例外なく引き締まった体つきで必ず良く歩き、労働に従事している。つまり長寿者にメタボは皆無なのだ。人生の長生きはその人の大地を踏み締めて歩いた距離であると森下博士は断言された。そして(5)子沢山、性の相手がいると、スコッチウイスキーのオールド・パーさんの性豪伝説を裏付けていた。

(29・02)

新学習指導要領案

2020年度から小学校が、2021年度から中学校で実施される次期学習指導要領の改定案が提示された。

日進月歩の世の中、小学校で英語が教科化されるのが目玉のようだ。読解力の低下が指摘されている中、語彙などを豊かにし、6年間で取得

する漢字は1026字となる。国語・数学・理科・社会・図工・音楽・体育と教科の基本は不変のようだが、時代の流れか「いじめ」問題への対応等思いやりの心や友情や生命の尊さを理解させ、多様な見方や考え方を深め、判断力や表現力を高める指導が盛り込まれ、教える側の更なる指導力が教師の負担増にならないよう、専門化する必要があると考える。知能と健康な心と身体を育成する、児童・生徒への新学習指導要領全面改定案を如何に機能的に実施させるか、年間の授業時間の2002年の大幅削減した「ゆとり教育」前の水準に戻るためにも、文部科学省・教育委員会
の腕の見せ所に期待する。

(29・03)

バイオ医薬品

バイオ医薬品とは、遺伝子組み換えや細胞培養を活用して製造された

タンパク質をベースに、複雑な構造を持った医薬品を言う。

ジェネリックと称される後発医薬品は主として、化学合成で製造され、各製造メーカーが安全性と価格の低廉化で使用率を80%近くまで高めている。

それに比してバイオ医薬品は特許が切れた後の安価な後続品の普及が進んでいないという。オプジーボのような高額医薬品を速くジェネリック並に安く提供出来れば2025年に3000億円の医療費削減が可能と言われている。普及しない理由は、薬価が先行品の7割に据え置かれている特例のため、患者自己負担に差が少ないから実績ある品が優先されてしまう。まだ先の事とは言え年々増加する医療費は保険料と税金・借金などで支えている現状を考慮すると、速く安くなつて欲しい。

(29・03)

相撲とSUMO

大相撲春場所、新横綱「稀勢の里」の誕生で大いに盛り上がるだろう。

「御嶽海」や「正代」らの進境も著しい。

海外から相撲界を見た時、東京新聞上海支局浅井氏の記事は「もう日本人vs外国人から相撲界はどうに国際化して、その恩恵に預かっている」と指摘した。外国人の観客数の増加と新鮮な目で相撲の神髄を見出そうとしている見方を「SUMO」と表現されていた。しかし、「相撲」は神事を担う精神と様式美という文化的要素がある。また前近代の相撲部屋の師弟関係や外国人が日本社会に馴染み、稽古に励み、強くなり、日本人以上の素晴らしい力士に成長して行く過程と歴史が「相撲」と「SUMO」という国際化に変えていいかは疑問である。剣道とともにオリンピックク

の種目に採用されなくても、共に神道的な係わりは国際的評価を得ている。反論する訳ではないが相撲は「相撲」であって「SUMO」では無い。外国人が日本に帰化しても親方として子弟を指導することは素晴らしい。日本の国技だからだ。

(29・03)

満開の花見(日本橋)

3月4日の事、5年後創立150周年を迎える母校常盤小学校同窓会へ出席した。一寸早過ぎたので、本町通り(中央通りと昭和通りに平行した)を歩いて驚いた。ピンクの桜並木が満開だった。未だ細い幹の幼木ながら懸命に咲き誇っていた。途中の名札に「オカメザクラ」の解説と「阿亀桜」「マメザクラとカンヒザクラの交雑、花は一重・下向き咲き・バラ科(中央区)」とあった。

よく日本橋へは行くのだが、花の

咲く頃に初めて遭い、それも3月上旬で、普段の喧噪な商社問屋街に素敵な中央区の配慮を知って感動した。千代田区の境、旧東仲之橋から日本橋・旧魚河岸通りまで700メートル一直線の景観?を楽しんだ次第。休日の裏通りもいい風情がある。花の盛りにぜひどうぞ!(29・03)



女性議員

国会が動いた。「政治分野に於ける男女共同参画推進法」が全党一致で

成立する。国際組織列国議会同盟が1月に纏めた世界193ヶ国下院(衆議院)の占める女性議員の割合は、日本は163位(9%)であり世界平均23%の半分にも満たない。完全に国際潮流から取り残されているのが現状だ。

小池都知事や蓮舫民進党首の活躍はガラスの天井を破っているが、防衛大臣の勉強不足は「均等」の実現の努力が足りない。人口比は男女ほぼ半分、然し意思決定の場での議員の比率は政策に歪みを生ずる懸念が多い。女性議員は女性の権利・子育て・介護・被暴力等には施策の前進に貢献している。比率の高い欧州は数十年の実績の結果で有り、そのため120ヶ国以上が「クオーター制(人数割り当て制)」を実施している。日本も法改正や党則変更などで「クオーター制」導入のチャンスでもある。

(29・03)

奇怪な出来事

2月、3月に様々なニュースが飛び交う中、常識外の奇怪な事件が多発した。

解決や結論が出るまで可成時間が経過すると考えられるので記録して置きたい。

(1) 白頭山直系の怪死と薬物etc. として沈黙。

(2) 学校用地払い下げと政界と総理夫人の関与。

(3) 築地移転の責任と究明。

(1) は国際問題だが、サリン事件に似たそれ以上強力な薬物VXが無防備素手で使用されたこと、暗殺されたのは偽造。ハスポートの替え玉説。

(2) 国有地を1/10で平然と処分している責任感の欠如は国民の財産の私物化に繋がる。(3) 百条委員会ですうなるのか。責任のなすり合いと、国民の食の流通と安全性をどう考えて

いるのか？ ますます小池都知事に期待せざるを得ない。その他、どさくさに郵便料金の2割値上げ、ますます利用が減るのは目に見えている。民営化は勝手な値上げを許認可した訳では無かったはず。(29・03)

健康サポート薬局

厚生労働省が昨年10月から始めた、薬剤師による地域住民の健康管理を積極的に支援する「健康サポート薬局」制度は、高齢化で膨らむ医療費抑制策に沿ったものだが、これは本来の薬局薬剤師(私たちの年齢層)が過去において、街の科学者として実施して来た方策であり、真新しいものではないのだ。

現今、医薬分業による調剤薬局は58000ヶ所あるが、厚生労働省の計画ではその内の10000ヶ所に「健康管理について相談できる薬局」として指定するそうだが、そのた

めには一般大衆薬(OTC薬)の設置と複数薬剤師を置かねばならず、さりとて国の助成も無しに上からの目線で望まれても、現場の調剤薬局や門前薬局では対応に難点を示すのは当然である。発足から半年の現況なのだ。年老いた街の薬剤師の呟きでもある。(29・03)

門戸を閉ざす

情報管理を徹底するとして、企業情報や通商交渉など機微のある情報を扱っているためか経済産業省は先月末から全ての執務室に施錠をし、記者等の出入を規制してしまった。外部との交流を遮断する「門戸を閉ざす」は、本質はメディア規制のためらしい。

考えてみれば政府が握る情報は、本来は国民のものなのだ。役所の情報は原則公開である。そしてそれは、民主的な行政の推進のため「情報公

開法」の根本的精神である。

そもそも安全保障や外交などの重要な機密情報を扱う部署を除けばどの省庁も施錠などしていない。経済産業省が施錠したのは異様な光景と言える。国民の知る権利を損ねてまで秘密にする必要があるのか疑問だ。2025年万博博覧会を大阪に誘致する報告書の関西弁版がセンス悪い批判があり、撤回したそうだが、おかしな管理振りもメディア規制なら止めた方がいい。(29・03)

食の持つパワー

末期ガン(前立腺)を宣言されたフランス料理のシェフが14年後の今元気でいる徹底的食事療法「死なない食事(幻冬舎)」の著書が売れている。

既報「ガンにならない食事療法」や「ガンは恋人」(27・08)の「ゲルソン・甲田療法」で食事管理を述べた

が、この本も本質的には変わっていないようだ。

ガンを食事で抑える7の心掛けとして、(1)地産・旬の食材 (2)まろごと摂食 (3)身体の保温(陽性食品) (4)バランスかつ雑食 (5)強い生命力の野菜 (6)動物タンパクが元気の基 (7)食品添加物は取らない。その上で、根本的に「調味料を変える」として、シェフらしい料理法を記している。塩は岩塩、醤油は脱脂加工大豆は禁、みそは自然生味噌、60度以下に、砂糖は黒砂糖かミリン、酢も重要(身体のアルカリ化)。

さらに具体的に (1)主食は玄米 (2)魚・肉は塩揉み (3)牛乳はなるべく避ける (4)植物性乳酸菌 (5)万能うま味調味料 (6)アーモンドは優秀食材 (7)食事は2度 (8)野菜はホタテの殻で洗浄 (9)水は浄水 (10)カロリーは気にしないがG1値を重視。結局昔の日本食をヒントにたどり着

いた命の食療法と結論されていた。体験者は強い。ぜひ参考に！(29・03)

【前号の訂正とお詫び】

前号冬季号(通巻630号)掲載の『記備談語』内において次の通り訂正いたします。申し訳ありませんでした。

★73 ページ下段6行目

《誤》3分の4 ↓《正》4分の3

★78 ページ下段7行目

《誤》発生 ↓《正》発声

★86 ページ下段10行目

《誤》高論者 ↓《正》高齢者

※タイトル「記備談語」について

「記事・備考・談話・語録」の頭文字から「きびだんご」として、健康関連情報や関係団体の新情報、世相のニュースから勝手連的に、日々アンテナを巡らせ、頭の老化防止に努めております。ご覧下さい。少しでもお役に立

ては幸いです。

薬剤師・指圧師・剣道6段・NARK認
定歌謡講師 佐藤 玄祥（博）

桜花咲き乱れる鎌倉

アルプスと稲村ヶ埼温泉

浜名 新

在京の高校同期の4人と、4月初旬、（1人は腰痛出現のためドタキャン）、お寺の散策、鎌倉アルプスのハイクを楽しみました。お日柄も良く、晴れ渡り、桜の花も見ごろで、幸運でした。温泉入浴で疲れをとり、カフェで一献傾け、旧交をあたためました。全員、後期高齢者で、多少の持病はあるでしょう。小生は高血圧症、高脂血症などの生活習慣病、脊椎管狭窄症などのロコモの諸症状と数年来付

き合っている。

当日、午前9時40分、JR北鎌倉駅、東口に集合。

3月、幹事のK君からメールで、「鎌倉アルプスのハイクの概略と参加の有無の問い合わせがあった。円覚寺↓建長寺↓天園ハイキングコース↓瑞泉寺↓鎌倉駅です。標高は160mくらいで、多少のアップダウンあります。さほどきついとは思いません。花見の季節で、帰路、稲村ヶ埼温泉で疲れを癒します」

鎌倉アルプスは初めてで、鎌倉の寺の散策も懐かしく、参加の意思を伝えた。

アクセスに関して、近頃、場所と時刻さえわかれば、インターネットの「路線」の検索で、電車の路線と乗り継ぎの時刻がたちどころにわかり、便利この上ない。JRの分厚い時刻表の頁をめくり、特定する手間隙が省けて久しい。

西荻窪から新宿駅へ、湘南ライナーの1番線へ。午前8時ごろ、ホームには通勤客があふれんばかり、ホームからの転落事故も報道されている。ほぼ満員の停車中の木場行き電車の方が、5分遅れの大船行きの湘南ライナーである。大船と北鎌倉の位置関係がこんがらがり、ホームにある駅事務室に駆け込み、職員に、「北鎌倉は大船の先ですか」「ひとつ先です。本数が少ないので、今度の5分遅れの大船行きに乗ってください」「ありがとう」

ひとつ心配事が解決し、5分遅れの8時5分に乗車。それがかえってよかった。品川あたりで座れて、外の景色を眺める余裕が出てくる。大船に着いた。しばらくすると、各駅停車の鎌倉行きの電車が来て、北鎌倉駅で降車。ホームが狭く、意外と長い。東口の出口が2箇所あり。タッチパネル式の支払い器が設置されていた。

駅員のいない出口から、親子連れが、ぞろぞろ道路に出て、晴れの入学式に向かうのかもしれない。

職員のいる東口で、タッチパネル式の支払機にスイカをあて出口を出る。早めに着いていた幹事のK君と挨拶。小生が2番手。旧交を暖めていると、皆さん元気な姿をみせ、全員がそろろう。幹事のK君はハイク概念図と行程表のコピーを配り、「円覚寺・建長寺を散策、建長寺の半僧坊あたりの登山口から登り、尾根筋を進み、鎌倉カントリークラブのクラブハウスあたりの天園の平地で昼飯、瑞泉寺から、街中ハイクで鎌倉駅に至ります。江ノ電に乗り稲村ヶ崎駅で下車、温泉入浴、カフェで一献やりましょう。アップダウンあり、2時間強の行程、多少きついかもしれませんが」

参加者は各自愛用の杖を持参し、年齢を考えれば、必須のアイテムで

ある。

観光地のせいか、諸外国からの外人客も相当なもので、にぎやかである。4月の空は晴れ渡り、桜の花は咲き乱れ、訪れたお客をさすがしく迎えてくれている。

臨済宗・円覚寺派本山から歩き始めた。拝観料を支払い、パンフレットをいただく。パンフによれば、円覚寺は弘安5(1282)年に創建され、開基は元寇の役に活躍した鎌倉幕府の執権北條時宗、開山は宋から来朝した高僧の無学祖元(仏光国師)。円覚寺創建の目的は、蒙古襲来で戦没した多くの霊を敵味方なく弔うことでした。また、禅の教えとして、「このように生まれてきて 生かされていま、生きている これこそ 佛心、如来、無量のいのち ありがたく手を合わす」——今生きていられるのは、仏様がおられるからで、それに気づいて、明るく生きましょう。

小生は神道だが、神や仏を敬うことにはかわりはない。氏子である松庵稲荷で例年午前零時から年始のお参り、お神酒を頂き、くじ引きの行事に参加している。また、松の内に同期生と高尾山薬王院をお参り、下山後、フロッピーの湯につかり体をほぐしてから一献傾ける。日本人は宗派を超えて、神社や寺を参詣するのは当たり前になつている。

国宝として、舍利殿、洪鐘(おおがね)がある。鐘楼はロープで固定され本領発揮のときを待っている。

建長寺まで車道沿いを10分ぐらい歩く。車が疾走して危ない。拝観料を支払い、パンフレットをもらう。パンフの寺の履歴によると、「建長寺は巨福山建長興国禅寺といい、鎌倉5山の第1位、臨在宗建長寺の大本山です。今から約760年前建長年(1253) 鎌倉幕府5代執権北條時頼(1227—1263)が建立した

わが国最初の禅寺です。開山（創始者）蘭溪道隆は、中国の高僧無明慧性に学び、寛元4年（1246）³³歳で来日し、九州、京都を経た後、鎌倉に入り北條時頼に請われて建長寺に迎えられました」

ここにも国宝として、「法語規則、開山 蘭溪道隆像、梵鐘」などある。建長（けんちん）汁はこの寺の発祥の料理だそうだ。

山の中腹に半僧坊がある。明治23（1890）年235世住職霄（おおぞら）貫道が静岡県浜松市奥山方広寺より勧請したもので、建長寺の鎮守、半僧坊大権現が祀られ、参詣者が堪えないそうだ。

登山口に入る。階段脇に手すりが出られ、つかまり、急登の階段を上る。老人には意外ときつい。手すりに助けられて上りきる。120段だそう。展望所には先客がいる。相模湾や芽吹きの山々、市街地が遠望でき

て癒される。

ここから鎌倉アルプスの尾根筋のハイクとなる。木曜日の平日、行き来するハイカーとの遭遇機会は少ない。樹林帯の中の尾根筋なので、残念ながら遠景に遭遇する機会は無い。落葉した土の感覚、日常のしがらみから離れた気分は、やはり得がたい。意外とアップダウンがあり、杖が役立つ。おばさんたちは快適な足取りで、にぎやかな笑い声、後ろから迫いかげられ、頃合いを見てみちを譲る。

鷲峰山を経由して進むと、鎌倉カントリークラブの、打ち下ろしのあるホールがトレイルに隣接している箇所があった。天園の平地に着いた。西側に白亜のゴルフ場のクラブハウスが隣接している。足を伸ばし、各自持参したおにぎりなどをほおぼる。天空に、トビが旋回し、ハイカーの弁当を狙っている。急降下して私どもの場所に急接近し、参加者の手を鳥

の足が掠めたようだ。餌不足で、空腹なのか、ハイカーの弁当を狙い打ちする、ならず者になっているようだ。油断ならない。トンビのカラス化といわれるそうだ。

太平山を経由して下りの行程で、なにやら聞きなれない鳴き声が近場で聞こえた。道脇の樹木に大きめの野性リスが、縄張りの主張か、雌を引き寄せる求婚の鳴き声だったのかもしれない。天台山を経由して下りきると、瑞泉寺に着いた。拝観料を済ませ境内を散策した。ここが天園ハイクの終点である。

後日、読売新聞の夕刊をパラパラとめくっていたとき、いま風 たしなみの紙面に瑞泉寺の住職の大下一真（おおした・いっしん）氏の随筆が掲載されていたのを知った。天園ハイキングに免じて、要点と和歌を引用させていただきました。

瑞泉寺の住職の大下一真氏は著名な歌人で、歌誌「まひる野」編集発行人で、2017年4月25日の読売新聞夕刊の「いま風」火曜日の紙面に、「歌人 山崎方代(ほうだい)のmana」と題し、素晴らしい随筆を掲載されている。

甲府在の出身の山崎方代さんは歌人で、4冊の歌集を遺して、昭和60年に没したそうだ。自宅なく、妻子なく、財なき大酒飲みの方代さんは応召して眼を負傷し、晩年、ひよんなことから瑞泉寺の山中の小庵に出没し、当時、瑞泉寺の天下豊道和尚に気に入られ、小遣いを貰っていたそうだ。和尚さんは視力を減じた(右側は失明)傷痕軍人の方代さんを、眼にかけ、奇縁が続いたそうだ。

大下一真氏が随筆の主題に選んだ方代さんの和歌4首は、

ふるさとの 右左口郷(うばぐち)むら、現在の甲府の在)は 骨壺の

底にゆられて わがかえる村

焼酎の 酔いのさめつつ 見ておれば 障子の棧が たそがれていく
手のひらに 豆腐をのせて いそいそと いつもの角を 曲がりて帰る

瑞泉寺の 和尚がくれし 小遣いを たしかめおれば 雪がふりくる

長居は無用、相当な距離を鎌倉駅まで歩かなければならない。しばらく田舎風情の様子でのんびりした気分歩いていた。街中に入ると、小生は足裏が痛く、焼け付くように感じ、脊椎管狭窄症による症状がお出ましとなった。我慢できず、歩道の道端で腰を下ろし小休止した。腰を伸ばさなければ、症状が消失しないからである。皆さんお疲れの様子、小休止となった。

再び歩き出し、鎌倉宮の場所を過ぎ、右手の奥にある「鶴岡八幡宮を詣

でましよう」と意思表示をする人もいない。みな相当疲れているみたい。鎌倉八幡宮へ至る幅2メートル以上の歩道は、道路の中央部にあり、これから参詣へ参る人、帰る人々で混雑し、外人さんも数多く遭遇。道路には車が行き来し、両脇の町屋は隙間無く建ち並び、大昔とはすっかり様変わりしていた。

鎌倉駅に着くと、運よく江ノ電が待機していて、ラッキーでした。通勤・通学の客、観光客、沿線の住民の利用者は多く、結構混み合っていた。稲村ヶ崎駅で降りた。天気予報通り、天気が崩れる気配で、肌寒く、風が強く、海は荒れて白波が押し寄せていた。

稲村ヶ崎温泉は海沿いの国道134号脇に、1階建ての建物の中にあつた。確か2時間入浴、1400円なり、濃い黒茶色で、弱アルカリ性で、松の成分を含む炭酸水素塩泉、美肌

創業1968年の老舗洋食レストラン「Main」は、隣の仮設店舗で営業しており、ラッキーでした。店内は広く、こざれいで、板張りでした。かわいいう女性が笑顔で出迎えてくれた。海風が強く、ガラス窓を揺らし、海原では白波がほえていた。眺めが素晴らしい。

(29、4)

鈴木啓之

終戦から10年経った昭和30年、日本はこの年から経済成長期に入る。私は17歳の高校2年生であった。当時エンターテインメントの主流は映画で、私も映画少年のひとりであった。そのころ見た映画の話である。

昭和31年、石原慎太郎の「太陽の

季節」が芥川賞を受賞する。選考会では高く評価する委員と否とする委員のあいだで議論が交わされた。その年受賞作が映画化される(図1)。主人公は都会の高校生の竜哉(長門裕之)でボクシング部である。当時私が通っていた高校の校舎がロケに使われたこともあって、映画が公開され



図2 主演の長門裕之（右）と南田洋子（左）
中央は端役で出演した石原裕次郎



図1 「太陽の季節」のポスター

るとさつそく見に行つた。

竜哉は街で知り合つた英子（南田洋子）と夏の湘南海岸であそぶ。石原慎太郎の弟の裕次郎がチョイ役で登場する（図2）。スクリーンには、光輝く海、沖にひろがる入道雲、白い帆のヨット、ビーチではスポーツ刈（小説の影響で慎太郎刈とよばれた）の少年たちや水着姿の若い女性など、派手でまぶしい光景が映る。原作には、その晩英子がいる部屋の障子を竜哉が外から屹立した男性器で突き破る描写がある。マスコミはこの場面を扇情的に書きたて喧伝した。映画ではどんなシーンになるのか、なかばドキドキ、なかば期待して見ていたら、英子が読んでいた本を力いっぱい障子に向つて投げつけて、この場面を表現していた。私が大学に入ったころ、部活の先輩から「太陽の季節をまねして毎朝合宿先の障子を小説と同じように破いたものだ」と

面白おかしく聞かされた。その先輩たちもみんな後期高齢者となった。

竜哉がボクシングの試合のあと英子と銀座6丁目のジュリアンソレルという実在の喫茶店でデートをする（図3）。後日部活仲間とその喫茶店にコーヒーを飲みに入つた。大学に入ってからその話をする、高校生が喫茶店なんかに行っていたのかと驚かれた。友人のI医師が「東京いつか見た街角」という写真集を送つてくれた。そのなかの1枚にジュリアンソレルが映っている。懐かしいので彼にメールしたら「喫茶店よりお店の前のオートバイが気になります。英国製のSunbeam SSです。当時は高嶺の花で、ぼくは国産のメグロに乗っていました」と返信があつた。映画の内容全体についていえば、原作の描写を忠実に映像化しているが、主人公の行為には戸惑うばかりで共感はいまなかった。竜哉は英



図3 銀座にあった喫茶店ジュリアンソレル
写真集「東京いつか見た街角」（持田晃）から

子とのつきあいが煩わしくなると兄貴に5000円で譲りわたすとか、妊娠中絶の手術後に腹膜炎を併発して死亡した英子の葬儀で祭壇の遺影に香炉を投げつける、などの行為が唐突でついていけない。映画のつくり手たちも消化不良のまま製作をすすめたように感じた。この映画が当時の社会に衝撃を与えたのは確かだ

あるが、多くのひとは眉をしかめるばかりであった。この手の映画(太陽族映画とよばれた)は何本か公開されたが、まもなく衰退した。

端役で出演した裕次郎であるが、不良っぽく悪そうだけど笑うと八重歯がのぞいて愛らしく、どこか育ちのよさがにじみ出ている。背が高く足がめつぽう長い。このキヤラクターが映画人の目にとまり映画デビューすると、あつという間にスターとなった。映画「太陽の季節」の最大の功績は裕次郎の発掘であろう。テレビドラマ「西部警察」のころはすっかり太って、往年の裕次郎とは別人である。病に倒れ52歳の若さで亡くなる。

映画「野菊の如き君なりき」

昭和30年には木下恵介監督・脚本の「野菊の如き君なりき」が公開された(図4)。原作は伊藤左千夫

の「野菊の墓」である。名作「二十四の瞳」の翌年の作品である。映画は老人の回顧からはじまる。渡し船に乗った老齢の男性(笠智衆)が遠くをみつめている。「もう60年もむかしのことですから細かなことの多くは覚えていませんが・・・」とナレーションが入るとスクリーンの画面はたまたご形になり、老人の少年時代の映像に変わる。



図4「野菊の如き君なりき」のポスター
主演の田中晋二と有田紀子

少年の名前は政夫という。川岸を「民さーん」と叫んで走る政夫(少年時代は田中晋二)、舟のうえの少女民子(有田紀子)が「政夫さーん」と応える。ふたりは幼いころから仲がよいいとこ同士で、政夫が15歳、民子は2歳年上の17歳である。民子は政夫の家に手伝いに入るためやってきた。畑仕事をしながら「民さんは野菊のようなひとだ」「政夫さんはリンドウのようなひとね」と会話をかわす。ところが周りの大人たちがやきもちを焼いて中傷がひどくなる。心配した政夫の母(杉村春子)や祖母(浦辺粂子)が注意をするが、恋心はますますすつのる。

ふたりをかばってきた母親も心配になり、政夫を全寮制の寄宿舎に入れる。政夫が発発の朝、民子はこぬか雨のなかを船着き場で見送る。しつとりと雨の咽る墨絵のようなシーンがいまもつよく印象に残る。傘を



図5 雨の渡し場で政夫を見送る民子の
悲痛な面持ちが印象にのこる

さして佇む民子の泣きたくても泣けないせっぱつまった横顔が映るとぐつと胸が詰まった(図5)。このときがふたりの今生の別れになってしまふ。

やがて民子は実家に帰され嫁がされる。婚礼の日、覚悟をきめた民子は

角隠しの顔を毅然と持ち上げて前を見せる。すかさず祖母に「花嫁さんはうつむいとき」と注意される。そんな時代であった。嫁ぎ先で流産のあと民子は実家に戻って床につく。とつぜん政夫に「スグカエレ」という電報が届く。急ぎ帰宅すると待っていたのは民子の死のしらせだった。祖母が泣きながら「息を引きとって枕を直そうと思つたら、民子はな左手にお前の手紙とりんどうの花をにぎつとつたじゃ」と話す。

画面はたまご形から再び四角に戻り、年老いた政夫の姿を映す。小高いところに墓石がいくつかならぶ。老人が民子の墓に野菊の花をそつと手向ける。その光景をカメラは遠くから映す。「秋更けて野もさびゆけばみ墓べに鳴くかこおろぎ問うひともなく」という伊藤左千夫の和歌がフェードインされる。静まりかえった場内が明るくなる。



図6 主演の有田紀子はこのあと間もなく
映画界から引退した

映画に感動した高校生5人は、劇中のセリフをテープレコーダーに吹き込んで放送劇もどきを作った。卒業後クラス会で会ったばかりのことが話題になった。いまは5人のうち2人が世を去り、ひとりには音信不通である。映画は洋画しか見ない同級生(そういうひとが多かった)がわれわれの熱気にあおられて「野菊の如

き君なりき」を見に行った。翌日学校で会ったら「よかったー」と興奮気味にさげんだ。当時の高校生が感動を共有できた映画である。有田紀子は当時15歳の高校1年である。清純な感じの美少女はあこがれであったが、数年して映画界から去った(図6)。

信州を舞台に少年少女の悲恋物語を上質の文芸作品に仕立てた木下監督の力量はすごい。この監督ならではのリリズムあふれる作品である。このあと「檀山節考」「笛吹川」など野心的な作品を発表する。昭和30年代は黒澤明、木下恵介、小津安二郎、溝口健二などの監督がいて、役者も二枚目の男優女優に加えて個性豊かな脇役陣がそろい日本映画の黄金時代であった。

私はいえ、高校3年間を目いっぱい楽しんで過ごした代償として予備校生活が待っていた。

スリッパ

八潮 弘三郎

山本が勤務している医療機器メーカーの管理担当の副社長の岩本が先月急死した。岩本副社長がいつものように遅くまで仕事をし、帰宅するため、部下と一緒に帰ろうと三階の部屋から廊下に出て階段を降り始めた時に階段を踏み外して後頭部を打撲した。その時岩本副社長に同行していた部下も後頭部を打撲しただけで、出血もしていなかった。で、大事故ないと考え、帰宅した。その夜けいれんを起し、そのまま意識不明となり西新宿にある大学病院に救急搬送となり、脳出血を起していることがわかり、その後意識は回復することなく一週間後に亡くなった。山本は関東精器の開発部門に勤めて五年になる。出社するといつも作業着を着て

独りで予定していた実験を繰り返す毎日である。企業の開発部門といっても、彼が考えた開発に関わる実験をしているわけではなく、完全に会社の実験プロジェクトに組み込まれており、必要なデータを手分けして実験条件を変えながら測定していく作業がほとんどである。週に一回一時間ぐらいのミーティングがあり、月に一回研究の進捗状況を研究担当の事業本部長に報告する。日常は周囲の研究員と対話しながら、実験を進めるといふ職場ではない。黙々と作業することになる。副社長の急死は周辺で仕事をしていた側近の者たちを含めて職場内での大事件でもあり、山本も動揺した。

三つ年は上だが、入社が同期の宮本さんは外交的な性格で、大学は理工学部の卒業であったが、営業に配属された。当初の毒な辞令のように思った。しかし最近の山本の日常

と比べると、周囲にヒトの動きも多く職場を覗くと電話の応対や話し合いの声や時に笑い声などが混じり聞こえ、活気を感じ楽しそうに見え、この頃はちよつと羨ましくさえ思う。人事はそれぞれの適性を見抜いて配属を決めているのかもしれない。宮本さんは女性関係においても発展家であるという噂である。以前に秘書課のマドンナと宮本さんがお付き合っているというまことしやかな噂が社内には流れたことがあった。関東精器には妙齢の女性は何えるほどしか存在しない。そんな中秘書課の彼女は独身男性の憧れであった。山本は想像するだけでも羨ましく思い、同期の快挙かと色めき立ったが、どうもうわさに過ぎなかったようであった。結局秘書課のマドンナはほどなく学生時代の友人ということになっていた弁護士の方に外からさらわれてしまった。またひとり素敵な女

性が社内から消えた。

岩本副社長の急死に際して毎年予定されていた研修の開催が再検討されていたが、社内的重要行事であるということになったようで、裾野でいつも通り開かれことになった。山本は学生時代から山での遊びには縁がなかった。山で遊ぶにはウエアなどにお金がかかることも気が進まない理由のひとつであった。登山用の靴もそれなりの値段の品物が必要であり、靴下一つにしても日常のスニーカー用のものというわけにはいかない。レインコートもゴアテックスでないと蒸れてしまうことは学校での登山行事で経験済みである。加えて霧ヶ峰に中学一年の夏にトレッキングの行事があったがめまいが取れず苦労した。その後山に行くことと繰り返して同様の症状が起こるので、ワンダーフォーゲル部の顧問をしていた数学の教師にきいてみたら、千メー

トルレベルでもヒトによつては軽い高山病がおこると教えてくれた。理由もわかりますます山には縁遠くになっていた。しかし山への憧れは人一倍強く、植村直己のマナスルでの登頂のドキュメンタリーや夢枕獏の『神々の山嶺』は愛読している。

明日から毎年夏に予定されている裾野でのマネジメントの集中研修が二泊三日で組まれている。日常の仕事が山積みになってしまふので参加に気が進まない仲間も少なくないが、日常の仕事では接することができない他の部署の同期の仲間たちと久しぶりに交流できるチャンスだと思ひ、参加者が募られる春には必ず応募することにしている。もう一人の社内のマドンナである健康管理室に配属になっている陽子さんも同期入社の人ひとりである。陽子さんは入社時から気になっている存在だ。研修では必ず健康管理がテーマの一つにな

るので、今回の研修にも来ているに違いない。健康管理室は身体には自信のある山本にとっては縁の薄い部署である。年に一度の健康診断で関係するくらいで、フォローアップの

データもいつも問題なしである。彼女は保健師の資格で、健康管理室に配属されているようだ。心理相談のような業務らしい。以前メンタルヘルスに関する彼女が書いた社内報の記事を読んだことがある。人の弱々しいメンタルを扱う仕事のようにあるが、普段は人一倍元氣そうにしている、周囲とも楽しそうに話している笑顔の可愛い女の子である。自分は彼女が扱っている仕事の対象ではないが、僕も彼女と話がしてみたい。もしかしたらもう誰かと仲良しなのかもしれない。彼女とは同期ではあるが自分のことは検診で何回か接しただけなので、存在すら知らないはずである。山本は用もないのに、

話しかける勇氣もないし、チャンスもない。集中研修では同期の仲間とゆっくり話しができ、陽子さんとも接点ができるかもしれないと淡い期待をしている。

裾野までの移動は新幹線で三島に行つてタクシーを乗り継ぐか、JRの御殿場線の裾野駅に行きそれから歩くしかない。いずれもなかなか不便だ。今回はいつも研修には参加しない宮本さんが参加することになった。宮本さんは車が好きである。以前はスカイラインGTRに乗っていた。山本も乗せてもらったことはある。クルマに興味のない山本でも知っている名車である。しかし乗せてもらつてみるとサスペンションが硬く調整したあつたせいもあつたと思うが道路のデコボコを細かく拾つてしまい、乗り心地が良くなかつたので、以降は誘われてもなるべく乗せてもらわないようにしてい

た。集中研修の前日山本はいつものように実験を続けていると、宮本さんが声をかけてくれた。久しぶりに営業の手柄話でも聞きながら、一緒に車で研修に行くことになった。楽しみがまたひとつ増えたと思った。

昼の十二時の集合であつたが東名が込みそうなので早めに東京を出ることになった。山本も早起きは全く苦にならないので六時に待ち合わせることにした。山本の住んでいる団地は海沿いの埋め立て地にある。最寄りの駅からは歩いて十五分ほどかかる少し不便なところである。しかし新しく開発された場所、居住区には原則車は入り込めず、ヒト優先であることが気に入って住むことにした。朝の始発のバスは六時三〇分であるので、それより前の時間帯に動く場合自転車以最寄りまで移動するか歩いて駅まで行く方法しかない。まだバスの始発前なので、いつも利

用している団地のバス停付近はがらんとしていた。五〇メートルくらい向こうにゴルフバックとたぶん靴が入っている大きな目のバッグを持ったスポーツティーなウエアに包まれた女性が見える。休みが日曜日でないお勤めの方なのかもしれない。主婦の方でウィークデーも自由に動ける方なのかもしれない。その方以外空気が動く気配はしない。遠くから白のスカイラインの独特の排気音と共に近づいてきた。

「ちよつと待たせてしまったかな？」宮本さんは人懐っこく運転席から窓を開けながら笑いかけた。

「そんなことありません。ありがとうございます」と答えながら、目で合図された助手席に座った。山本の住んでいる団地は駅からは不便であるが、高速のランプはすぐそばにある。東京湾トンネルに向かってのクルマはこの時間帯かなり増えてきた。

僕たちは四車線の左側の側道を通り、環状六号線の地下に作っていた山手トンネルに入った。とても空いている。三号渋谷線を通って程なく東名である。あつという間に東京を抜けた。厚木まではクルマが多いように感じたが、GTRの威力なのか、走行車線の前が開きスムーズである。二人は山本が東名を通行する時には必ず利用すると車中で話していた海老名のサービスイリアにある吉野家で朝定食を食べることにした。吉野家には学生時代学校帰りに日本ハムが主催する東京ドームで行われる全試合をファンクラブの会員証でただ同然に観戦できていた頃いつも並の牛井によつて空腹を満たしていた。社会人となり給料をもらえるようになってからも牛井に感謝を込めて、山本は海老名での朝食はいつも吉野家と決めている。食事が終わって、缶コーヒーを飲みながら助手席にいる山

本は少し眠くなってきた。厚木インターを過ぎると車の通行量が減ったように思う。牛井でお腹が一杯になりウトウトしていたようである。気が付くとクルマは裾野インターで一般道に出るために減速をはじめていた。いつのまにか裾野に着いたようだ。自分はこつくりしていて、運転している宮本さんにちよつと悪いと思った。

宮本さんはちよつと困ったように「まだ九時前だなあ。集合は十二時だし食事しながらゆつくり来たつもりだったけど、早すぎるなあ？」とつぶやいている。「時間もあるし、五合目まで行ってみるか？」と山本に提案した。山本は今まで富士山には来たことがなかった。そのことを宮本さんに伝えると、それならばということで、馬力のあるスカイラインは山道を力強く登り始めた。一時間にもかかわらず五合目に着いた。裾野では

晴れていたが、五合目は霧がかかっている。夏ではあるが少し肌寒かった。車を降りて二人で散策をし、五メートルくらい上に二人で座るに丁度良い大きさの石があったので、顔を見合わせ目で合図してそこに座ろうと移動した。すると二人とも激しく息を弾ませることとなり、横広の石にたどり着いたときには動悸で手足が冷たくなるほど喘いだ状態になってしまい、目の前の石にへたり込んだ。わずかに標高差が五メートル程度での場所の移動でこの様であった。周囲にはこれから頂上を目指すのであろう装備をした人々が思い思いに歩き回っている。八〇歳を少し超えているかもしれない身体の小さいお婆さんから二人に気軽な感じで声をかけられた。

「二人は随分息があがっていたね」と声をかけられた。喘いでいたことをすっかり見られていたようだ。山

本は恥じながら、今車で東京から着いたばかりであることや普段設計で座つてばかりの仕事であることを伝えた。お婆さんは毎年何度も富士山の登頂も繰り返ししていると教えてくれ、僕らの喘いだ坂道を息も弾ませずすたすた歩いて見せた。二人で顔を見合わせ、苦笑した。ちよつとそこまで登つてみるのは無理なので、周囲を見渡してみると、宿泊できるかもしれない大きな山小屋の休憩所をみつけた。一休みすることにした。宿泊客はだれもおらず、後ろの大きいスペースを従業員が掃除をしている。「コーヒーはありますか？」と尋ねると、快く招き入れてくれた。先客が一人いただけで、あとはがらんとしている。さつきの出来事を山小屋のご主人に話すと、慣れたお婆さんたちがとても強いこと、それから息があがつて失神する人もいることなどを教えてくれた。少し向こうに座

っていた方が親しげに僕らの会話に加わった。宮本さんと面識があるようだ。空気が薄いところでは登山による発汗による脱水も関係して起立性低血圧が起きやすいことを説明してくれた。自分の専門領域は心療内科なのだが、大学が運営している西穂高にある山岳診療所の運営に関係していて、今年管理に入つた時に、食事のコールがかかつて宿泊のお客さんが三々五々集まり始めた時に、急に大きい音がした。西穂山荘の二階の階段上で、四十代の男の方が失神して階段途中まで落ち、人並みに寄りかかるように階段の途中で止まつて、階段を下りた途中にいたマツチヨな人が抱きかかえ、途中で止まつた。すぐに意識は戻つたが、食事前の和んだ雰囲気が一転して緊張した。丁度その時彼は五十メートル位離れたところに独立して立っている診療所から冷えたビールを買いに山荘に

来ていた。すぐに救急処置をしよう
と駆け寄ったが、そのまま回復した
が、ちよつとビックリしたという話
しを聞かせてくれた。

宮本さんは輝くように先生の今の
山での失神の話を聞いていて、「そ
の話もしかしたら以前にどこかで
伺ったような気がします。」とさらに
親しげに相槌を打った。山本は山に
は縁がなかったので、山小屋での食
事場面を想像し、ワクワクしながら
聞いていた。静かな富士山の山小屋
でのんびりした空気が流れていた。
すると三人が共有していた安定し
た空気を破る様に自衛隊の隊員が慌
てたような表情で、がらんとした山
小屋の食堂に駆け込んできた。キョ
ロキョロしながらそこにいる男三人
を吟味するように順番に見渡して、
ご主人はこの人だと見極めがついた
ようで、弾んだ息を整えながら、口を
開いた。

「あのーご主人ですか？電話お借
りできますか？急いで救急車お願い
したいのですが。」

「具合の悪いのは隊員なの？」

「そうです。通信隊が初めての訓
練をしていたのですが、一人が九合
目付近で動けなくなってしまったと
連絡が入りました急いで救急車お願
いします。」と慌てている。

山本も何か切迫した感じになり、
ご主人に早く連絡してほしいと自衛
隊員と一緒に切迫した気持ちになっ
ていた。しばらく張り詰めた空気が
支配していたが、その空気に抗うよ
うにご主人が話し始めた。

「ちよつと考えれば分かりそうな
もんだけどな。九合目まで救急車が
搬送に行けるわけないだろ。それに
お前ら自衛隊だろ。連絡はここに来
るのではなくて、下に待機している
部隊に連絡するように言われたので
はないの？ほら装甲車も下にいるじ

やあないか？あれなら近くまで上が
れるよ。早く下の部隊に連絡しな。」
と小屋主が一気に話すとそれまで張
り詰めていた空気が緩んだ。

「あやうく僕も真顔になつてしま
うところだったよ。」と心療内科医だ
と自己紹介してくれていた彼が笑い
ながら口を挿んだ。

自衛隊員は伝達に来るところを間
違えてしまったことを恥じながら、
トランシーバーで通信隊に連絡を始
めていた。山本たちもそろそろ昼か
らの会社のワークシヨップに移動す
る時間が近づいていたので小屋の支
配人さんに別れを告げてその場を失
礼することにした。これを何かの御
縁として、医療機器開発を仕事に
していることを心療内科の医師の彼
に告げ山本の名刺を渡すと、

「僕は栗田といいます。府中にあ
る帝国医大で心療内科を専攻してい
ます。」と名刺を交換してくれた。職

位は准教授とあった。小屋の支配人さんにも今日の出来事は今晚の話しのネタになりそうですと笑い、コーヒーの代金を渡し、山小屋を辞した。

ワークショップの開かれる研修所まで三十分程のエンジンブレーキを二速にいれながらのある程度運転に緊張感が必要な下り道であった。スピードが自然と出てしまっている。

さっきあった九合目への救急車の話しを着に栗田准教授と偶然出会ったことは大変な収穫だったなあと急なカーブにハンドルをゆっくり合わせながら、宮本さんが話した。山本も東京に帰ったら栗田さんにアポを入れようと思った。山本は宮本さんが以前に栗田先生とは面識があったのか聞きたかったが、タイミングを失ってしまった。質問できないまま研修所についてしまった。

ワークショップも終わり、山本は開発の仕事に、そして宮本さんは営

業の仕事に戻っていた。山本も宮本さんも陽子さんとの接点を作ることにはできずに、しかし他の入社の同僚とは充分楽しい時間を共有して東京に戻っていた。山本はワークショップの日に富士山の五合目にある山小屋でお会いした栗田を訪ねて行った。

栗田は山本の訪問を快くうけ入れ、山本がプロポーズする形で栗田との共同研究を考えていることを伝えた。

山本は山での出会いをきっかけに、何度も栗田の所に訪ねていき山の話しや自律神経機能検査の方向性についても示唆を受けていたので、彼への恩返しのため、医療機器の共同開発の研究を提案していたつもりであった。自律神経の機能を検査するための機器を開発することは従来から沢山のアプローチが行われてきたが、データが安定せず困難なものの一つであった。栗田もそれまで機器開発を意図はしていたが、実際は

手が出せなかった領域でもあったため、山本からの提案はいわば渡りに船と、全く双方異存のない状態での協働関係の成り立つ提案であった。

自律神経機能検査の機器の開発は血圧や脈拍などの細かな変動を係数化し複数の因子の合成として計算していく方法で機能の評価する方法を模索していくことになっていた。山本は口下手で栗田との楽しい会話を展開しながら機器の工夫の意欲を伝えたいと思っていたが、いつも会話が弾まず、ぶつきら棒に機器の設計の要点だけを説明するだけとなってしまう、打ち解けない対話を繰り返していた。次の段階の契約のための折衝を切り出さなければいけない時にも、もたもたしてしまふ。栗田は心療内科の臨床で鍛えた応答のテクニクが自然にでしてしまうのか、会話の切れ目切れ目で、場をつなぐ話題を時々提供してくれ、とぎれとぎれ

になつて気まずい沈黙が繰り返してしまふと、時々には共有できそうな話しをしてくれ、山本の緊張をほぐしてくれる。栗田の話しでは富士山と一緒にだつた営業の担当の宮本さんとは以前から面識があり、宮本さんが山好きであることも栗田准教授はご存じであつた。食事も一緒にしたことがあるようであつた。富士山で会つた時は山本にとっては初対面であつたが、宮本さんとは以前に面識があつて山小屋で宮本さんを見かけ二人に声をかけてくれたということも栗田の話しでわかつた。栗田は関東精器の本社にも来たことがあることもわかつた。本社は新宿の富久町にある。戦災をくぐつた歴史を感じさせる建物で、外壁はレンガ張りの化粧を施してある4階建ての古めかしいものである。栗田はものづくりの支援のために寄付講座を作る提案を相談に関東精器に相談に来ていた。

二年半の折衝の後、医学部臨床検査の大学院へ修士の資格を持った研究意欲が旺盛な社員の研究を推進することとなり、長い交渉過程の結果、医学部に継続的支援を行い、社員の大学院教育を推進していくこととなつた。関東精器の希望で、この産学の関係は競合他社の刺激になつてはいけなしいとの配慮からであらうが、公表はしないことにはなつた。会社が派遣する大学院生はすぐに決まつた。関東精器の精度検査部門に所属していた臨床検査技師の資格を持つ彼女は意欲的に病院内の実習をはじめた。テーマを探索することを指導教官から指示され、病院内で行われている検体採取の現場に立ち会つた。最初の研修場面がよくなかつたのかもしれない。骨髓を穿刺し、骨髓液を採取する検査に立ち会つた。テキストではどのようにして採取しているかは彼女はよく知つていた。いや知

識としては充分に知つてゐるつもりであつた。しかしあまりに凄惨な検体採取状況であつたため、ショックを受け、途中で気分が悪くなつてしまつた。

以降医療現場への違和感が強くなりとうとう一年生の終了を待たずに退学してしまつた。彼女の心理的支援にも栗田が関わり、会社の仕事の中で有能な人が必ずしも探索的に研究テーマを探し研究を遂行する作業に卓越しているとは言えないことがわかり、次年度以降社会人大学院生の会社内での人選は難航することになる。

そんな関わりが会社の執行部との間で交わされていたということについて山本は全く知らされていなかった。共同研究の申請を山本ごときの新米研究員の提案がトントン拍子で許可されていった経緯を思い出すと納得がいった。山本や宮本さんのい

る事業所は荻窪にある。栗田准教授が新宿にある本社に講演に行ったとき、営業の宮本さんを本社ビルで見かけたと話していた。どうも石づくりの階段を磨いていたらしい。栗田は古い建物ではあるが、建物全体に清掃が行き届いていて、床や階段がピカピカに磨き上げられていること好感を持ったと話した。そこで面識のあった宮本さんが床をモップで掃除していたらしい。開発に所属している山本は入社式以来本社には行っていないが、営業は本社に用事があるのかもしれないと思った。床の掃除もすることがあるようでやはり営業は自分にはとても務まらない大変な仕事だと感じた。栗田の研究室を自律神経機能検査の機器の試作品の入った箱をもって、会社へ帰る途中で、なんで営業の宮本さんが本社の役員などだけが使っている新宿の本社にいたのかと不思議に思った。

山本は入社式以降富久町の本社には立ち寄ったこともない。しかも宮本さんはモップをもって清掃をしていたようだ。

山本は岩本副社長が会談でスリッパして、ついには亡くなってしまったことは何か複雑な背景がある様に直感的ではあるが、そう思っていた。山本は栗田先生にその疑問を投げかけてみた。栗田先生は岩本副社長の病気の背景をある程度ご存じであった。

「私も不思議に思うことがいくつか思い当たるんです。」と当惑したような表情をみせ、自分が話しながら整理するといった感じで、エピソードを独り言でも言うようにボソボソと話し始めた。

岩本副社長は以前から健康診断の心電図では虚血性病変を指摘されていたが、特に自覚症状もなかったの

で奥様には食事や日常生活について注意をされていたものの気にはせず、高脂血症の治療薬だけを服用していた。医療用の検査機器を開発しているメーカーの幹部なので、懇意にしている循環器を専門にする医師も友人として存在しているので、友人の医師からも治療を勧められていたようである。宴会の帰りにJRの駅の階段を急いで登った時に狭心症の発作を起こしたことがあった。すぐに知り合いの循環器専門の友人医師に連絡を取り検査を受け、労作性狭心症と診断がついた。ステントをすぐに留置するように勧められたがステントの処置には抵抗があり少し考えたいということになっていた。心筋梗塞のリスクを回避するために、それまでの間はワーファリンをきちんと服用することとなった。ワーファリンのきちんとした服薬が皮肉にも命取りとなる脳内の出血の要因となってしまうことになる。栗田先生

も相談を受けていた。

さらに岩本副社長は以前からの頭痛もちで、いつも鎮痛剤を持ち歩いていることを知っている。岩本副社長はこのところの運動不足の対処でジョギングを始めていた。昼休みにはびっしり汗をかいて帰ってくる。岩本副社長は元々起立性低血圧の體質であつた。役員になつてからおそらく接待のための宴席が多くなり、もともと食べるのが好きであつた岩本はすぐに体重が増えてしまう。体重が増え始めるとともに、コレステロールは二四七と高くなつてしまつたが、加えていつも一〇〇以下であつた上の血圧は一二〇くらいに上がり立ちくらみが起こらなくなつてきて良かったと思つていた。栗田先生は岩本副社長の立ちくらみの相談を受けていた。

階段で滑つた当日は京都に行つていた。妻の父方の実家が京都である

ため彼女の祖父母の法事は京都のお寺で行われる。その日も初夏で気温も三〇度以上に上がり、岩本は京都日帰りの行程であつた。あまり水分は取れていなかった。東京に帰つてからもシステムアップした医療機器のプレゼンの準備のため一時間前に広尾にある総合病院の近くに行った。いつも広尾にある総合病院を訪問する時に使っている喫茶店に入ろうと思つていたが、お店が見当たらず、きよろきよろしていた。ドコモショップに変わつてしまつたようで、お店の内装工事をしている。喫茶店は無くなつてしまつたようだ。仕方なく近くにあるレストランに入つてアイスコーヒーを注文した。プレゼンの仕事が夕方から組まれていた。入札のためのプレゼンは何とかうまくできたように思えた。彼は若い頃からひどい緊張症であつたが、徐々に地位が上がってくると、胸がドキドキ

したり顔が赤くなつたりすることはなくなつたが、プレゼンの前には必ず二度トイレに立つ習慣は今も消えない。緊張の状況と頭痛の關係は栗田先生の専門でもあり、繰り返し相談を受けアドバイスも受けていた。今回も終わつてホツとして、品川駅でビールを買つて飲んだ。崎陽軒の六個人入りのポケット焼売も好物である。駅の売店で見つけ、ビールをのんでホツとすると、またトイレに行きたくなつた。頭を打つてから入院時の緊急の検査ではヘマトクリットが五〇%を超えるかなり脱水になつていたが、等張性脱水となり、のどが乾かなくなつてしまい、さらにアルコール利尿がついてしまつたためさらに脱水が増悪したと考えられた。アルコールが入りふらふらもしてはいたが、早く家に帰つうとしたが、立ちくらみを感じ頭痛の前兆のような症状と似た感じがしてちよつと心配に

なった。いつも服用しているバップアリンを飲んだ。バップアリンはワーファリンの作用を増強することが知られている。バップアリンの服用で抗凝固作用はさらに増強された状況になつていたと考えられる。その日の

一〇時過ぎに栗田の携帯には岩本副社長からの着信の記録が残っている。バップアリンは四時間で抗血小板凝固作用が出現し、一〇時間後に抗血小板効果が最高になることは既に文献的には明らかになっている。京都から直接広尾にある病院のプレゼンのために移動していたので、会社には戻っていなかった。さらに明日もあさつ回りで終日社に戻らないので、いったん本社に戻って書類を決裁してから帰宅することにした。すでに鎮痛剤を服用してから五時間くらいたつていて頭痛も収まってきていて、本社を出ようとしたのは一〇時頃に急いで階段を降りることとなった。

図らずも階段でスリップするところにバップアリンの抗血小板凝固作用も出現し始めた時間になつていた。

宮本さんは一途なところがあり、仕事熱心なのはいいのであるが、思い込むとテコでも曲げないところがあった。営業の仕事をする上ではない結果を生む要素になつていて、時に逆転の発注を獲得することもあった。宮本さんは全く独自に陽子さんが素晴らしい能力を持っているのが将来がバラ色になるように願っていた。心底そう思っていた。彼女が副社長のところにしばしば出入りするようになっていたので、女性関係のうわさがあまりよくない副社長が彼女に接近していると思ひ込んでしまったようだ。宮本さんは自分の考えからの推論だけで副社長のことがすっかり嫌になつてしまつていた。いっそ副社長が出張の飛行機がアクシデントに巻き込まれ困ったことになつ

たらいいと願うようになっていた。以前栗田から山小屋の階段でのスリップの事故のことは聞いて知つていた。宮本さんはスリップ事故を夢想していったようだ。岩本副社長がすべて階段下に落ちていき、それを冷ややかに宮本さんが上から見ているという夢もみたことがある。ちよつと自分でも怖くなつたが、陽子さんのためにはその方がよいという思いは益々強くなつていた。陽子さんが本社の岩本副社長のところに出入りしていることを確かめるために、本社の丸い弧を描いている二十段ほどの古風な作りの階段を自分で建物の調査に興味があるといい、土曜日に階段の手入れをするようにしていた。滑りやすいようにと床を磨き上げていたのかもしれない。本社の掃除を担当している者にも大切な歴史的なものだからもっと磨くようにと働きかけていたようだった。

そこまで話しを聞いたところで、話しの主人公である宮本さんが栗田の部屋にやってきた。山本は飛び上がるほど驚いたが、栗田はどうぞと言って招き入れていた。どうも栗田先生が宮本さんを今日ここに呼んでいたようであった。

山本は栗田先生が宮本さんに話しかける前に、どうしても聞きたかった質問をした。

「宮本さんは岩本副社長にアクシデントが起こりやすいように準備していたのではないか？」と尋ねた。宮本さんはうつむいていたが、「全て偶然の重なりすぎない」といった。山本は本社の階段にワックスをかけていたのかどうか聞きたかったが、恐くて言い出せなかった。栗田先生もそうであってほしいと思っている。岩本副社長の階段での転倒は事故という事になっている。警察も捜査の対象にするという話しも聞いている。

ない。

山本は宮本さんが陽子さんと個人的な関係を密かに持ちたいと思っていたという告白を聞いてさらに驚いた。本当は山本も陽子さんと個人的な関係を持ちたいと夢想していたのだが、宮本さんから陽子さんへの尋常でない思い入れがあったことを聞かされて、自分の気持ちなどとても話せる状況でなくなっていた。宮本さんは話し続けた。

「僕は陽子さんがしばしば本部に來ていることを知っていたし、健康管理室に訪ねた時に、電話で陽子さんが困ったように電話で対応していたのに遭遇して岩本副社長が陽子さんを我が物にしていると確信するに至った。陽子さんは本部に健康管理の仕事で出入りすることは考えられないし、特別な関係を迫られているに違いないと考えていた。宮本さんは岩本副社長の邪惡な力が無垢な陽

子さんを及んでしまうのを何とか阻止しないといけないと思った。加えて営業本部が進めていた外国での事業展開するための一連の特許出願を進めていたが、途中でベンチャー企業から買い取る予定であった権利の譲渡が思う様に進まず、この事業を担当していた営業のメンバーの一部が更迭されていた。宮本さんは岩本副社長の決断に違いはないと考え、宮本さんは岩本副社長というひととは現場の努力をくみ取れない人だと感じていた。」宮本さんはここまで話して、栗田先生の部屋から思いつめた表情で出ていってしまった。

栗田先生と山本はかなりの時間沈黙しながら部屋にたたずんでいた。あたりはすっかり暗くなっていた。随分時間がたってしまったようであった。

部屋がノックされた。陽子さんだ。栗田先生は陽子さんにも研究室に來

るように伝えていたようで、さつきまで三人が深刻に話している部屋に訪ねてきた。空気が一気に和んだ。山本は陽子さんが間近に現れたのでドギマギしてしまった。改めて栗田先生はそれぞれをお互いに紹介した。栗田は彼女に急に呼び出したことを詫び、宮本さんの話しを始めた。

「さつきまで宮本さんがここに来ていました。陽子さんによくとのことでした。お二人に来ていただいたのは、お伝えしたいことがあったからです。」と話し始めた。

陽子さんは父親の同級生であった岩本副社長とは小さい頃から面識があった。会社の忘年会はくじを引いて席を決める習わしであったが、陽子さんは偶然岩本副社長のテーブルで一緒にすることになった。彼女が小さいころ、副社長の家に遊びに来て父親と一緒によくお酒を飲んでいたことを覚えていると伝えた。彼女

からは忘年会の話題の一つとして会社の健康管理室に勤務している臨床心理士では難しい症例を実際に見る機会になかなか恵まれないことを話した。その時岩本副社長は親友の娘さんである陽子さんが自分の会社の健康管理室に勤めていることを初めて知った。

陽子さんは明けて正月に岩本副社長に本社に来るように連絡を受け、新宿の本社を訪ねるとそこには栗田准教授が呼ばれていた。岩本副社長は親友の娘さんに便宜を図ろうと動き、栗田准教授と懇意にしていた。彼女の希望している研修の話しを伝えてくれた。それから副社長のはからいで週に一回帝国医大の心療内科に研修に通うようになった。岩田副社長には研修の成果を月に一回昼の休み時間を利用して報告に行っていた。しばしば彼女が副社長を訪ねているのは不自然だと宮本さんが考えた理

由は研修の報告のためだった。彼女は帝国医大の医局でも出色だったようで、どんどん臨床心理の学びがすすんでいった。二年程非常勤の研究生として教室に入りに入っているうちに、専攻の近い卒業の決まっていた大学院生と意気投合するようになった。栗田准教授からも勧められ二人はこの夏にゴールデンすることになった。陽子さんは教えることになった。宮本さんの片想いの気持ちで栗田先生から聞き驚いたようであった。

もちろん彼女の研修先で知り合った彼女のことと宮本さんの片思いとは何の関係はない。しかし岩本副社長の偶然のスリッパは宮本さんが密かに願っていたことではあったかもしれない。岩本副社長の身に起った偶然の重なりからとうとうスリッパのアクシデントにつながってしまった。

山本にとつては秘書課のマドンナに続いて陽子さんも栗田准教授のお弟子さんとゴールインすることは残念であつたが、今回のことは全く彼女には関係のないことではあるが、栗田先生からの話しを聞き嫌な思いをしたに違いない。彼女は多分関東精器での仕事は辞めて新しい別の世界での生活になつていく。山本は彼女に最高の幸せを手にしてもらいたいと心の底から思つた。そしてこの思い込みとある偶然の重なり合いによるアクシデントを思い出さないでほしいとも願つた。

栗田先生を囲んでの話し合いの後、山本は宮本さんに会うことはできなかった。本社の階段も大幅な改修が行われた。宮本さんは警察からの事情聴取を受けているらしいという噂はあつたが、資料編さん室に転属になり、着伝しないまま退社してしまつた。

原稿募集のお知らせ

次号（秋季号）締め切り

平成29年8月31日（木）

文芸特集号・原稿 締め切り

平成29年9月21日（木）

毎号、会員みなさまのご協力、誠にありがとうございます。
前号に引き続き、合併号となつてしまつたことお詫び申し上げます。

今回はクラブ通信でお知らせした通り、文芸特集号との二号分の原稿を募集させていただきます。文芸特集号は特別号です。別途お申し込みが必要ですのでお気を付けください。何も記載がなければ秋季号の原稿として掲載させていただきます。

引き続き、会員の皆様のご支援・協力をどうぞよろしく
お願い申し上げます。

※一部500円にて機関誌の追加購読も承っています。ご希望の方は事務局までお知らせください。

サイパン戦跡巡り

平櫛 孝少佐 十字架の道行き
闇の向こうの真相は(2)

美濃部 幸恵
協力 美濃部 欣平

『私はいま、灰色の十字架の重みに
堪えつつ、長い長い茨の道の余生を
生きている。』



平櫛 孝(ひらぐし たかし)

1908年(明治四十一年)広島市に
生まれる。広島陸軍幼年学校、
陸軍士官学校、陸軍大学校卒、陸軍野

戦砲学校、陸軍砲工(科学)学校教官、
陸軍省軍務局付、陸軍省(大本営 報
道部員、第43師団参謀、陸軍少佐
サイパン戦に参加、1980年没

第2回はまず、サイパン戦におい
て平櫛孝参謀が接触し、書き記した
「サイパンの軍首脳部の横
顔」から見たいと思います。

☆南雲忠一海軍中将

中部太平洋艦隊司令官

黒々と日焼けて目玉の
キラツと光る好々爺であつ
た。

パールハーバー、ミッド
ウェイと、わずか六カ月で
悲喜両極端を経験した額の
しわは深かった。

サイパンでは、陸に上が
った提督として作戦に関し
ては終始無言。

☆井桁敬治少将 第31軍参謀長
天覧試合にも出た剣道の達人 典刑的
な武人である。

☆鈴木栄助大佐 歩兵第138連隊長
実戦型の剛毅の武人であった。



動物園(小ちゃん)もありますよ。

特大コウモリ「フルーツバット」は見ものです。
吸血鬼ではなく果物を常食とする平和主義者です。
ライオン、大とかげ、トラ、ヒョウだって居ますが、
全員穏健派の顔つきでのんびり。
※ちなみにサイパン島には蛇は一匹もおりません。

☆小川雪松大佐 歩兵第136連隊長

物静かな外見と性格 六月十五日敵軍上陸の際は、正面で向かい撃つ指揮官としてたくましさにみちていた。

☆鈴木卓爾大佐 第43師団参謀長

軍政畑の騎兵科出身 支那参謀本部支那課長等歴任 鋭利な刃物のような切れ者であった。

☆斉藤義次中将 第43師団長

*平櫛 孝少佐は、昭和十九年四月名古屋に司令部を置く第43師団の参謀としてサイパン戦へ行く。

著書によると、横浜港から出発してからサイパン日本軍最期の司令部地獄谷の洞窟での一提督 二將軍の自決で斉藤中將の死を見届けるまでほぼ行動を共にしています。

もつとも親しかった斉藤師団長の

横顔を次のように綴っています。

「師団長は騎兵科出身 賀陽宮と同兵科であった。殿下の推薦もあつたと思われ陸軍中將に進級、第43師団長に親任された。

酒豪であるが普段はおっとりした無口な親爺である。」

横浜港出発の時は「忙しくなるぞ」「腹ごしらえしておけ」と自分の握り飯を渡してくれる。「親父のような心遣りが嬉しかった」。

軍司令部参謀の、43師団に対する行き過ぎと思える処置にも、温厚な性格からあえて異論を唱えなかった。「周囲と摩擦や確執を起こすことはなかった」と師団長の人柄を追慕している。

1944年日本軍の玉砕突撃前日の7月6日、南雲、斉藤、井桁サイパンの最高司令官の自決については戦

後諸説があるようですが、一般には平櫛証言が最も使われるようです。

サイパン戦において、最も悲しく悲劇的な結末の一つであった三將軍の、自決に立ち会った平櫛少佐の記憶はこの歴史的戦史的一幕を、哀感漂う筆致で書き残しています。

「サイパン肉弾戦」P196～197 関心を持たれたお方がございましたら是非お読みいただきたい。

……洞窟の一段と高いところが、掃き清められた。三人は肌着を着替えた。……

そして親爺のように、あるいは、やさしい兄のように尊敬し慕った「斉藤中將のやせた五十三歳の裸身を、かいま見たときはただ泣けた。」

……「今逝った三つの将星の霊が、この硝煙に乗って昇天していった」……。

昭和19年6月20日

グアム島からサイパン島への逆上陸作戦

6月20日グアム島から救援隊が発発し、まずロタ島に向かった。友軍の航空部隊や海上艦艇の協力は無く、途中大発二隻(乗員100名はアメリカ軍の駆逐艦と見られる軍艦に捕えられ連れ去られた。残りの大発動艇は、故障に苦しみながら21日朝7時、ロタ島に到着した。しかしサイパン島の戦況はすでに悪化し逆上陸は不可能になり、救援隊はロタ島よりグアム防衛任務へと帰島した。

***大発動艇(大発)八九式中戦車と重火器で武装した陸戦隊を搭載し、上陸作戦用に適していた。**

「米軍上陸よりわずか五日、アスリート飛行場は制圧され、ナフタン半島、カグマン半島も米軍が優位になっていた。

日本軍は両手両足をもぎとられたも同然の姿であった」と無念の戦を回想しています。

第31軍司令部も午後4時30分、機密書類を焼却した。

***昭和十八年に入ると絶対国防圏が設定された。陸軍は十九年に第三十一軍(司令官小畑英良中将陸士二期)を新設する。昭和十九年三月から陸軍部隊のマリアナ進出がはじまり、悲運の部隊となった四十三師団はこの指揮下に入った。**

昭和19年6月21日

「午前三時すぎ、逆襲指導に出かけたまま連絡さえ取れず一時は生死さえ心配された吉田参謀が四日目に帰ってきた。

『16日夜の逆襲部隊の作戦指導の後、ヒナシスに増援される歩兵第一八連隊山崎少佐と共に、来襲した米軍と混戦になり米戦車のキ

ヤタビラが飛び込んだ壕の上を渡っていった』と司令部に帰ってきた吉田参謀から激戦の有様を聞いたことを「サイパン肉弾戦」に書いている。

山崎少佐はこの戦場で戦死したという。

日本軍の有線連絡も度重なる砲爆撃で不通になり、通信係りの阿弓信雄中尉の徹夜の修復も、夜が明けると又破壊されてしまう。

「指揮幹線が有線電話一本では、あまりにも現代戦に時代遅れであった」

回顧録から溜め息が聞こえてくるようです。

「午後十一時過ぎ、ドンニイ水源地近くに師団戦闘司令部を移す。」岩山を痛む足を引きずって登ったと記す。

昭和19年6月22日

師団戦闘司令部④ドンニイ水源地
近く

「テナアン島より支援射撃22日の真夜中、チャランカノア西海岸にテナアンからの集中射撃が行われ、その直後日本軍航空機がアメリカ軍停泊地を約2時間半にわたって攻撃した。」



南洋桜（フレイムツリー）

6月から7月に燃えるような真紅の花を咲かせます。

戦前移民の方々は故国日本の桜を懐かしんで「南洋桜」と呼びました。

昭和19年6月23日

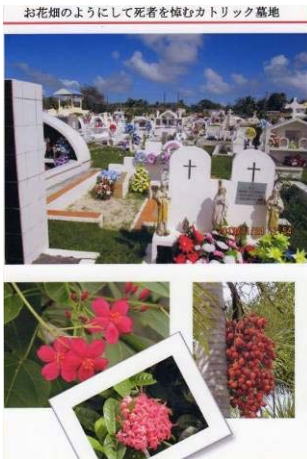
「東海岸地区にも米軍が現れ、ラウラウ地区には米戦車四両、歩兵約200名が進出してきた。師団司令部は藤井大尉を派遣して、有馬部隊の残存兵を集めて上陸防衛陣地を構築させることにしたが、藤井大尉の報告でこのときすでに

「有馬部隊の残存者などいなかった」と。

アスリート飛行場にはグラマン21機が着陸した。

昭和19年6月24日

師団の戦闘司令部も4日目には発見され、米軍機は超低空で舞い降りてきて機銃掃射を浴びせていく。



カトリック墓地

大戦前の日本委任統治時代には、南洋神社がありました。

現在、十字架が立ち並ぶカトリック墓地ですが、入口には鳥居や石の灯籠が残されております。

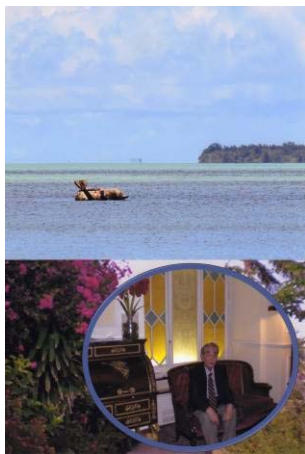


南洋サイパン島の

巨大ポトス

卓上観葉植物でおなじみのポトスも常夏サイパンでは私の顔の何倍もの大きさです。

サイパン島の巨大ポトス（シュガーキングパークにて）
卓上観葉植物でおなじみのポトスも葉は私の顔よりも大きい。山中にある旧日本軍電信山無線電信所は、破壊された建物に巨大なポトスが繁茂し、からみつき、覆いかぶさり不気味なほどでした。



サイパン島 光と陰の二つの顔

チャランカノアの海には、73 年前日米両軍の激戦で米軍水陸両用戦車が半身を水没させたままかく座しています。戦跡はリゾートゾーンの中にもあちこち残っています。奥地には戦争の爪痕がさらになまなましく残されて戦争の悲劇を物語ります。けれど一歩サイパンのホテルに帰るとそこは、南洋の楽園。熱帯の花々は咲き乱れ、目の前はコバルトブルーの海です。フレンドリーなホテルスタッフが旅人の疲れを充分癒やしてくれます。

砲撃、爆撃が交互に続き至近弾が落下する。
ラウラウ付近の戦車連隊整備隊まで勇敢に戦って全員戦死の報告。
「高射砲連隊玉砕、山砲連隊は一門の火砲も無くなった」と司令部衛兵長鈴木正大尉（陸士五十一期）は、全身に負傷し右足をひきずり

ながら連絡してくる。暗号班の畑軍曹は暗号班を指揮し、米軍に突撃したいと申しいで暗号書を平櫛参謀に預けに来た。

＊6月20日から23日にかけてマリアナ西方海上では日本軍の起死回生をかけたマリアナ沖海戦が行わ

れようとしていた。

このころサイパン島ではタツポーチョー攻防戦が続けられていた。

川村大隊（我ら降伏せず著者田中徳祐大尉の所属部隊）と歩兵118連隊（海没部隊の生き残り。大場栄大尉所属）その他の集成部隊は錯雑な地形を利用し山腹の自然洞

窟から敵を奇襲し奮戦、米軍は多くの死傷者を出し一歩も前進できなく此処を死の谷Death Valleyと呼んだ。

昭和19年6月25日

師団戦闘司令部⑤電信山合同司令部へ「軍司令部からの命令により電信山（ガラパンの東約1000メートル）の軍戦闘司令部に合流することになった。夜十一時電信山洞窟へ出発。時折射撃弾が炸裂する。月は皓々と天空に輝く。途中のドンニイ湧き水場は打ち壊されていた。」

＊電信山の軍戦闘司令部とは、陸軍司令部がガラパン公学校にあったところから築城要員を動員して、自然洞窟を工事拡大造成し整備した相当大きな壕であったようです。（タボチヨ山南側大地とある）

周囲に自然洞窟もあり幕僚部以外の要員が利用していたとのことです。

現在電信山には、ドイツ領であった頃の旧電信所跡と、戦時中日本軍が主に使用していたと聞く無線電信所跡が戦跡として残っています。

電信山合同司令部となった場所については、ジャングル山中のどの場所か、私達が分け入るのは難しそうです。

「午前二時頃合同司令部となった洞窟着。第二十一軍司令部、中部太平洋艦隊司令部とその幕僚（20数名）ならび関係者、送信、発電装置とその要員で満員だった。この中に43師団司令部（師団長、参謀長、参謀2名と直接関係者約10名）が割り込んだので足の踏み場もない。」

「夜が明けても奥深い洞窟の中は

薄暗い。その中に目だけギョロツとした南雲海軍中将がいて、軍参謀長井桁少将は狭苦しそうにあぐらをかいている。斉藤義次師団長はその間に割り込んだ」と電信山合同司令部の様子を書いている。

昭和19年6月26日

空がしらみだすと、洞窟の外は米機の掃射を受けて、大混乱していた。

井桁参謀長は外に出て大声で指示を出していたが、軍参謀長には洞窟内で戦況判断指揮の任にあたつてもらう為に、洞窟の外の処置は平櫛参謀が代わったという。

米軍の第一戦は偵察へ出た斥候の報告によると「ドンニイ（＊軍の弾薬、糧食保管所もあった）とタッポーチヨー山にも侵攻している」とある。

「洞窟近くに米艦の砲弾が落下す

ると、洞窟のなかは砂塵でまっ暗になった。」「艦砲の炸裂音だけが耳をつんざく。夜に入ってスコールがあるが、身体を洗うには足りない」

「この日の朝、洞窟外で米機の掃射をうけて、斉藤司団長の当番兵（大野上等兵）も戦死した。」と綴っている。

昭和19年6月28日

アメリカ軍のリーダー探知機、暗号解読、情報収集能力、そして組織間の綿密な連絡と連携の前に、サイパン守備隊はわずたに分断され、新たに設けられた戦闘指揮所も発見され攻撃を受けた。

6月28日の夜には、合同司令部は「マタンシャの内陸部の峽谷（通称地獄谷）に移し、戦線の縮小、兵力の再編により戦況の挽回をはかることになる」と記されている。

この合同司令部には、前線よりさがって後方の複廓陣地へ向かう部隊の指導に2名の大佐を残して、首脳部は発進起点としたドイツ委任統治時代に旧ドイツ軍のつくった旧電信山の南側にある自然洞窟に移動した。

この洞窟も、北へと避難してきた島民で溢れていたとのことでした。

琉球絃の着物や蛇味線、手鏡、かんざしなども散乱していたことやわりこんできた日本兵にむけられる島民の目がなんとなく冷たいとも書いています。さらに洞窟付近で艦砲弾が炸裂し、他の三人の参謀共々崩れてきた洞窟の土砂で危うく生き埋めになることが三度もあったと回想している。

＊三人の参謀とはデング熱で横になつていた第31軍参謀吉田清少佐、同関乙彦少佐、ラバウルから連絡のため派遣されていた第18軍参謀

黒田孝中佐と名前があります。

＊サイパン戦史を書きますとき、現代を生きる私に直接縁がなくとも、兵隊さんの苗字とお名前がわかる時は、感謝と追悼の気持ちを含めてなるべく氏名を書き残すようにしております。

ヨハネ傳福音書第八章 六節 イエス身を屈め、指にて地に物書き給ふ。
七節 『汝らの中、罪なき者まづ石を投げ打て』と言ひ、八節 また身を屈めて地に物書きたまふ。

次回は「最期の司令部地獄谷へ」

つづきます。



①チャランカノア国民学校 ②カナルタブラ谷南郷神社奥地
③師団輜重隊洞窟（筆者は正確な場所を確認出来ておりません）
④ドンニイ水源地近く ⑤電信山 陸海軍合同司令部
⑥地獄谷



医芸歌壇



矢

東京 小松 安彦

アテナではなくアルテミスアルカディアに会ひたる君の輝く顔は
聴きながら思ひいづるは君の声「レクイエムききたいな」と言ひき
ケルビーノの「恋とはどんなものかしら」イタリヤ語まで君は操る
日本にも伯爵夫人ゐしことに気づく霊園恋ふコンテッサ
エロスの矢アルテミスの矢傷跡に気づきし君を泉と呼びぬ

桜祭寸詠

東京 林 宏 匡

歩を弛め犬の散歩につきてゆく春は乙女の足取りのまま
春雨に濡れて深紅の八重樞通りすがりの目にさへ愛し
けふもかも桜祭の華やぎにさくらちらほら散りそむるらん
賑はへる桜祭の花の陰鳩に餌をやる幼な兒二人
桜咲き盛る今はを詠ふとき男心は老を思はず

棕櫚の樹

茨城 羽生 藤 伍

強風に長き棕櫚の葉靡なびきいて魔女の黒髪乱るる如し
細く高き棕櫚の幹なり強風に吹かれ終日輪状に揺れる
ミニカーに児童を乗せた若妻ら朝夕集う学校の門
教会か城か商店街なるかモンサンミシエルは海上の町
欧州の古き町には石造の大聖堂が高く聳ゆる

富士霊園

東京 横 田 英 夫

年ごとに桜の開花早まりて四月初旬に富士霊園へ
トンネルを一つ越ゆれば晴るるかと思いつつ行く東名高速
足柄に着きて憩える束の間に一面白き霞に覆わる
この春は寒さ続きて霊園の桜並木の花は未だし
霊園の霞薄れて白々と辛夷の大樹上向きて咲く



【文芸特集号 執筆者募集】

(一) 内容は自由

(二) 枚数に制限はありません。

一行 24 字詰め×22 行 2 段が基本の
1 頁です。(明朝体 11 ポイント)

※ルビがついたりすると変わります。

(三) 頁負担金 1 頁千五百円。

ただし、詩や短歌は 1 頁千円。

(四) 雑誌購読 予価五百円。

執筆者一人二十部以上。(できるだけ
多くの部数の購読をお願いしていま
す。)

文芸特集号は発行経費を執筆者で割り、
負担していただいています。執筆の希望
者が少ないと発行できないこともござい
ます。ご希望の方は、申込書を発送致し

ますので、事務局宛にメールまたは F A
X でご連絡ください。

申込書の締め切り

八月十七日(木) まで

原稿の締め切り

九月二十一日(木) まで

皆様のご参加、お待ちしております。

※通常の機関誌も近年、編集作業の遅れ
や原稿の集まりが思わしくなく、発行が
危ぶまれる号も度々ございます。文芸特
集号の発行も大変厳しいものと思われま
す。執筆希望の方には個別にご連絡いた
します。ご協力よろしくお願いいたしま
す。

【邦楽部より】

長年邦楽祭で大曲をご披露なさってお
られた前村八重子先生ですが、90 才とな
られ、前回の邦楽祭で最後に致しますと
仰り、体調不良にも関わらずトリをお勤
め頂きました。

本番での無理が祟って 3 ヶ月のご入院

となられたとのこと。

先生の素晴らしい御演奏が次回よりお
聴きできないかと思ひますと大変残念で
はございますが、どうぞお身体お大切に
なさって、いつまでも邦楽部をお見守り
頂きたいと思ひます。

長年のご活躍、誠にありがとうございます。

【事務局夏季休暇のお知らせ】

事務局は左記の日程で夏季休暇をいた
だきます。よろしく願ひいたします。

日頃から電話など、つながりにくく大
変ご迷惑をおかけして申し訳ございませ
ん。

平成 29 年 8 月 10 日(木) から

8 月 16 日(水) まで

今後ともどうぞよろしく願ひいたしま
す。

透視像



本村 美雄

カメラコレクターか

カメラマニアか

2006年頃椎津先生に勧誘され医家芸術クラブに入会しました。

それまでは旅行の時にスナップ写真位しか撮っていませんでした。まだFILMカメラが主流でしたが、デジタルカメラが出始めた頃です。思い切ってデジタルを購入しました。オートフォーカスなのでピント合せの苦勞から解放されたのはデジカメの利点です。問題なのは被写体です。

写真を撮ることを目的で出歩くことは全くありませんでしたから、写真展に出品するような写真をどうやって撮るか悩みました。写真同好会に加入して諸先輩からのアドバイスを参考にしました。デジカメは技術革新が目覚しく、1〜2年でモデルチェンジします。新しもの好きですので新製品が出ますと直ぐに買ってしまうです。デジカメを始めて11年でカメラは10数台になります。コレクションではありませんが名品を集めている訳ではありませんのでコレクターではありません。カメラを十分に使いこなせない内にまたカメラを買ってしまいますのでカメラマニアです。

撮影会の度、「今度はなにを買ったの？」と冷やかされるのが落ちです。でもデジカメの技術革新は年々目まぐるしい所が

あります。デジカメはスマホに押され気味と言われています。しかし、新製品の購入こそが業界の発展、強いては日本の工業の発展につながるのではないでしょうか

編集後記



気温の高い日もあり夏が近づいてまいりました。体調など崩されていませんでしょうか。

今回も前号に続き合併号となつてしまい、大変申し訳ありません。機関誌を楽しみにしていただいている会員の皆様には年間の発行回数が減つてしまいご迷惑をおかけしております。少しでも遅れを取り戻せるよう、また遅れを出さないよう今後も精進してまいります。どうぞよろしく願ひ致します。(ES)